

Peregrine

AssetCenter



はじめに

(c) Copyright 2005 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本製品に関する技術情報の請求、またはライセンスをお持ちの製品に関するマニュアル類の請求については、Peregrine Systemsのカスタマサポート (support@peregrine.com) までお寄せください。

本マニュアルに関するご意見やご要望は、Peregrine Systems, Inc.の出版部 (doc_comments@peregrine.com) までお寄せください。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.4に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



目次

PEREGRINE

前書き	9
1. AssetCenterの基礎	11
本書で使用される表記法	11
オンラインヘルプの使い方	12
データベースの概要	14
2. AssetCenterを初めて使用する	19
AssetCenterを起動する	19
データベースに接続する	22
AssetCenterの作業領域	23
レコードリスト	26
レコードの詳細情報	43
レコードの処理	51
データの編集	57
3. テーブル内で項目を検索する	65
クエリウィザード (QBE)	65
検索用フィルタの概要	68
フィルタの動作	70
リストの使用	71
1つまたは複数のシンプルフィルタ適用する	72
クエリフィルタを作成する	72

4. ウィザードの概要	75
ウィザードの定義	75
ウィザードのユーザ	76
ウィザードの分類	76
5. スケジュールのグラフィック表示	79
概要	79
スケジュールのグラフィック表示のページの使用	81
実用例	83
スケジュールのグラフィック表示のページ機能をカスタマイズする	86
6. データの印刷	87
リストの情報を印刷する	87
複数レコードの詳細を印刷する	89
印刷プレビュー	89
7. 参考情報	91
接続	91
アクション	94
メッセージ	96
履歴	97
アラーム	97
ショートカットキー	98
エラーメッセージ	111
インデックス	113



図の一覧表

PEREGRINE

2.1. 部署と従業員のテーブル - ツリー構造	30
2.2. 従業員のテーブル - リストの並べ替えツール	35
2.3. リストの設定	36
2.4. 「リストと詳細」モードでの表示	45
2.5. レコードの作成	53
3.1. 資産の対象となる契約用の専用フィルタ	69
3.2. クエリの作成画面	73
5.1. スケジュールのグラフィック表示 - 画面	81
5.2. スケジュールのグラフィック表示 - 作業指示での例	85



表の一覧表

PEREGRINE

2.1. 特殊フィールド - 列の色	38
2.2. レコード詳細 - 移動	49
2.3. 詳細画面のフィールド - ナビゲーション	50
2.4. 詳細画面のリンク - ナビゲーション	51
3.1. 比較演算子	70
7.1. マウスを使用しないナビゲーション - 一般機能	98
7.2. マウスを使用しないナビゲーション - メニュー	99
7.3. マウスを使用しないナビゲーション - リスト/詳細ウィンドウ	100
7.4. マウスを使用しないナビゲーション - メインレコードリスト	101
7.5. マウスを使用しないナビゲーション - タブ内のリスト	103
7.6. マウスを使用しないナビゲーション - テーブル形式のリスト	104
7.7. マウスを使用しないナビゲーション - ツリー形式のリスト	105
7.8. マウスを使用しないナビゲーション - レコード詳細	106
7.9. マウスを使用しないナビゲーション - 詳細画面のフィールドとリンク	107
7.10. マウスを使用しないナビゲーション - 詳細画面のフィールド	108
7.11. マウスを使用しないナビゲーション - 詳細内のリンク	109
7.12. マウスを使用しないナビゲーション - ウィザード	109
7.13. マウスを使用しないナビゲーション - モジュール	109
7.14. マウスを使用しないナビゲーション - データベースオプション	110
7.15. マウスを使用しないナビゲーション - 一般オプション	111



前書き

PEREGRINE

本マニュアルではAssetCenterの使用方法に慣れることに主眼を置いています。本書では、AssetCenterの使用時に実行する基本操作を詳しく説明します。

本マニュアルは、画面上操作のため参考書の役割も果たしています。

次章以降では、ソフトウェアの画面上での操作方法が説明されています。

本マニュアルは主に以下の読者を対象にしています。

- 初級ユーザ
- 新規機能が追加されたAssetCenterの新規バージョンのユーザ

1 AssetCenterの基礎

AssetCenterは、複数のモジュールから構成されるIT技術管理システムで、各モジュールは共通のリポジトリに統合されています。AssetCenterではポートフォリオを管理できるだけでなく、ポートフォリオ内の各品目のライフサイクルに関連するイベント（資産の取得や、税金、TCO、メンテナンス契約、作業指示などのコストの管理）も管理できます。

「統合」ソフトウェアであるAssetCenterでは、同じインターフェイスから全機能へアクセスすることができ、また単一のデータベースを使うため情報が重複しません。「機能的」なAssetCenterでは更に、必要な機能のみを選択してインターフェイスを変更することができます。この結果インターフェイスは簡略化されま

重要項目:

アクセスできる機能のリストは、ペレグリンシステムズから取得したライセンスに応じて異なります。

本マニュアルではAssetCenterの基本的な概念を説明しており、通読すれば本ソフトのグラフィカルインターフェイスにすぐに慣れることができます。

本書で使用される表記法

本書で使用される表記法は以下の通りです。

表記法	説明
Java Scriptコード	コードやコマンドの例
Courier体のテキスト	DOSコマンド、関数のパラメータ、またはデータフォーマット
...	コードまたはコマンドの省略部分
注意: 補足情報は...	補足情報
重要項目: 以下の注意事項は...	重要な情報
ヒント: 使用上のヒント...	ヒント
警告: 警告情報	非常に重要な情報
[オブジェクト名]	AssetCenterのGUIオブジェクト：メニュー、タブ、ボタン

次の規則も適用されます。

- 操作の手順は、以下のような番号付きのリストで表記されます。
 - 1 手順1
 - 2 手順2
 - 3 手順3
- 図や表には、各章ごとに順番に番号が付いています。例えば第2章の4番目の図には「図2-4」という番号が付きます。

オンラインヘルプの使い方

AssetCenterの使用中に、オンラインヘルプを使って画面上でヘルプテキストを読むことができます。

情報を検索する際、複数のオンラインヘルプを使用できます。

一般的なオンラインヘルプ

一般的なオンラインヘルプには、印刷版のマニュアルとほぼ同じ情報が含まれています。

オンラインヘルプを表示するには、AssetCenter画面をアクティブにした状態で [F1] キーを押します。

 **注意:**

Basicスクリプト（ソフトの一部の操作をカスタマイズし系統立てるための簡易プログラム）の編集用ウィンドウでは、[F1] キーを押すとAssetCenterの『プログラマーズリファレンス』が表示されます。このオンラインヘルプは状況依存ヘルプです。例えばスクリプトの作成中に、Basic関数の正確なシンタックスを忘れてしまった場合、スクリプト内の関数の名前を選択し [F1] キーを押します。すると、『プログラマーズリファレンス』の中からこの関数に関する説明が表示されます。

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプ

フィールドまたはリンクの状況依存ヘルプには、次の情報が表示されます。

- フィールドまたはリンクのSQL名
- データ型およびデータの入力形式
- フィールドまたはリンクについての説明
- 入力値の例
- 注：データ入力時の注意、自動処理機能など
- システムのリストデータ値
- カスタマイズ可能なリストデータの識別子
- リンクしているテーブル

状況依存ヘルプは、次に示すいくつかの方法で表示できます。

- カーソルをフィールドまたはリンクに置いてから、[Shift] キーと [F1] キーを同時に押します。
 - フィールドまたはリンクに移動し、マウスの右ボタンをクリックしてポップアップメニューを表示し、[フィールドのヘルプ] メニューを選択します。
 - フィールドまたはリンクに移動し、[ヘルプ/フィールドのヘルプ] メニューを選択します。
-

 **注意:**

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプの内容は、印刷版マニュアルには記載されていません。このオンラインヘルプの内容は自由にカスタマイズできます。

ワンポイント

このオンラインヘルプは、AssetCenterの起動時にソフトウェア使用上のヒントを表示します。

[スタートアップ時に表示する]チェックボックスをオフにすると、この機能を無効にできます。[次へ]ボタンをクリックすると別のヒントを表示できます。

[ヘルプ/ワンポイント]メニューを選択すると[ご存知でしたか]のウィンドウをいつでも表示できます。

スタートアップ時にワンポイントを表示するには、[ヘルプ/ワンポイント]を選択してから[スタートアップ時に表示する]オプションを選択します。

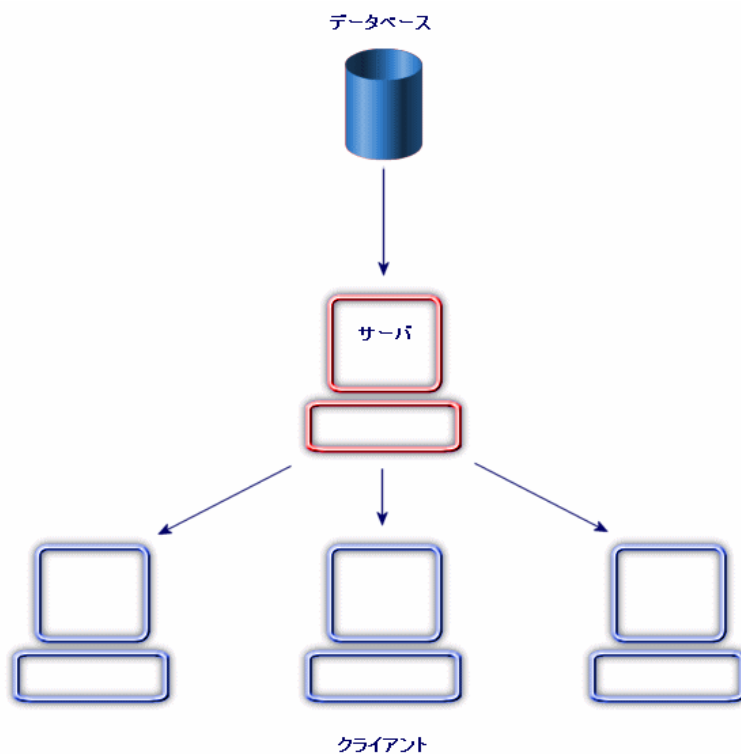
データベースの概要

AssetCenterの使用は、データベースの使用と密接な関係があります。AssetCenterの作業領域とデータベースへの参照機能は、データベースの複雑な構造ができるだけユーザの目に触れないように設計されています。しかし、データベースに関する基本的な知識があると、AssetCenterの全マニュアルで使用されている概念を理解しやすくなります。

データベースの定義

データベースは、データの重複を避けつつデータを構造的に格納するエンティティです。データはプログラム（この例ではAssetCenter）やユーザにより使用されます。データベースの概念は、データベースの情報を共有化するネットワークの概念に頻繁に関連付けられます。この場合、データベースは分散データベースと呼ばれ、情報は複数の遠隔コンピュータに格納され、あるユーザグループがネットワーク経由でアクセスできるようになっています。この反対はローカルデータベースで、これは1台のコンピュータにインストールされており、コンピュータのユーザのみがアクセスできるデータベースを指します。分散データ

ベースの利点の1つは、複数のユーザが同時に格納された情報にアクセスできることにあります。



データベース管理システム

データと、データにアクセスするユーザを管理するには、DBMS（データベース管理システム）を使用します。DBMSの使用により以下の操作が可能になります。

- データを保存する。
- データにアクセスする。
- ユーザのデータへのアクセスを管理する。
- データに基本的操作を実行する。
 - 挿入：データの追加
 - 削除：データの削除
 - 変更：データの変更
 - データの検索

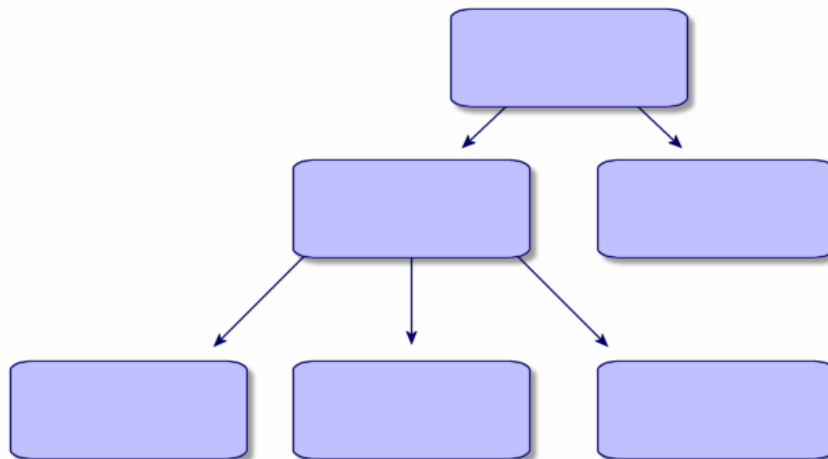
AssetCenterは、市場で入手できる主なDBMSとの互換性があります。

データベースのモデル

情報を系統立てて編成するには、一般的にデータベースの2つの主要モデルが使用されます。

階層型モデル

このモデルでは、以下の図のようにデータが降順のツリー構造で階層的に編成されています。



関係型モデル

このモデルでは、以下の図のようにデータが行と列を含むテーブル内に編成されています。

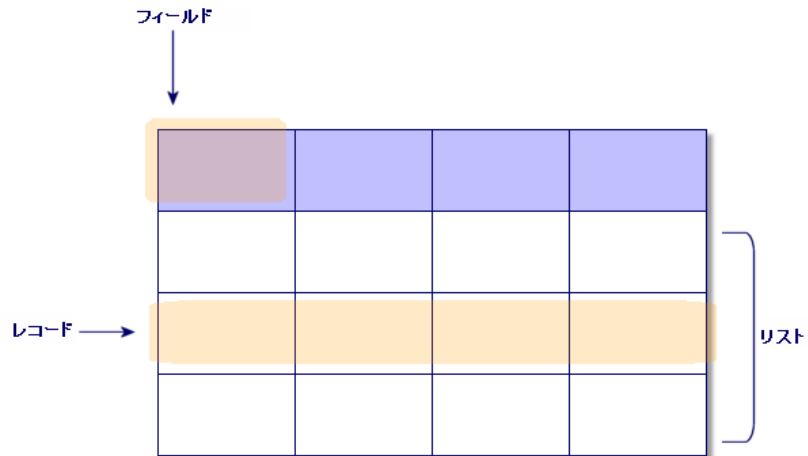
データベースの各要素は以下のように定義されます。

- レコードは、テーブル内の1行にあるデータ全体を指します。
- フィールドは、テーブルの列のタイトルに当たります。
- フィールド値は、テーブル内の1セルの値に当たります。

AssetCenterでは更に、2つの補足的概念が導入されています。

- リストは、レコード全体の部分集合から構成されます。

- 詳細は、1シート内の1レコードの情報をまとめ、論理的な方法で分類します。



ここで説明されている概念は、AssetCenterの使用にあたり非常に有用です。



2 | AssetCenterを初めて使用する

本章ではAssetCenterの作業領域に慣れることに主眼を置いています。ここでは特に、AssetCenterを初めて起動するときの基本操作を詳しく説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- AssetCenterを起動する
- データベースに接続する
- AssetCenterの作業領域を使用する
- データの標準の表示方法（リスト、詳細など）を使用し、設定する
- データベースに新規データを入力し、レコードを変更する

AssetCenterを起動する

次のいずれかの方法でAssetCenterを起動できます。

- オペレーティングシステムの [スタート] メニューを使う。
- コマンドラインから起動する。

Windowsの [スタート] メニューから起動する

[スタート] メニューからプログラムを起動する操作は、AssetCenterのインストール時に選択したプログラムグループにより異なります。

デフォルト値を使ってインストールした場合は、[スタート / プログラム / Peregrine / AssetCenter / Peregrine AssetCenter] を選択してAssetCenterを起動します。

AssetCenterの複数インスタンスを起動する

プログラムの複数インスタンスを起動するには、[Shift] キーを押しながら、オペレーティングシステムの [スタート] メニューでプログラムを選択します。

コマンドラインから起動する

AssetCenterをDOSのコマンドプロンプトから起動するには、

- 1 例えば [スタート / アクセサリ / コマンドプロンプト] メニューを選択して、DOSのコマンドプロンプトを開きます。
- 2 AssetCenterのインストール先フォルダのサブフォルダ「bin」へ移動します。例えばAssetCenterをデフォルトフォルダにインストールする場合、以下のコマンドを実行します。

```
cd /Program Files/Peregrine/AssetCenter/bin
```

- 3 コマンドラインに入力し、[Enter] キーで確定します。AssetCenterを起動するには、次のシンタックスを使用します。

```
am [-?|h|H] [-cnx:<connection>] [-login:<login>] [-password:<password>] [-view:<view>] [-config:<configuration>]
```

パラメータ

- -?, hまたはH：このヘルプメッセージを表示します。
- -cnx：データベース接続名（ [ファイル / データベース接続の管理] メニューを選択すると表示される接続の詳細画面の [接続] タブページ / [名前] フィールド）
- -login：データベースに接続する従業員のログイン（ [ポートフォリオ / 部署と従業員] メニューを選択すると表示される従業員の詳細画面の [プロファイル] タブページ / [ログイン]（SQL名：UserLogin）フィールド）
- -password：ログインに対応するパスワード（ [ポートフォリオ / 部署と従業員] メニューを選択すると表示される従業員の詳細画面の [プロファイル] タブページ / [パスワード]（SQL名：LoginPassword）フィールド）

- -view : 起動時に表示されるビューのSQL名 ([ツール / ビュー] メニューから選択可能なビュー)
- -config : 起動するモジュール
 - Itam : ポートフォリオ
 - Barcode : バーコードによる棚卸
 - Procurement : 調達
 - Contract : 契約
 - Finance : ファイナンス
 - Cable ケーブル
 - Admin : 管理
 - SAM : ソフトウェアライセンス
 - Chargeback : 経費付替え
 - DA_Automation : 自動化

複数のモジュールを起動するには、各モジュールをカンマで区切ります。

例

```
am -cnx:Database -login:util -password:Password -view:PentiumAssets -config:Itam,Procurement
```



警告:

- パラメータ値ではスペースは使用できません。
- モジュールをコマンドラインで起動する場合、 [ファイル / モジュールの起動] は使用できなくなります。

AssetCenterを終了する

AssetCenterを終了するには、 [ファイル / 終了] メニューを選択します。

終了時は、次の処理が行われます。

- 開いたすべてのウィンドウを閉じ、その位置を保存する。
- 変更されたレコードをバックアップするかどうかを確認するメッセージを表示する。
- データベースに加えられた変更を保存するかどうかを確認するメッセージを表示する (管理者アカウントの場合のみ) 。
- データベースを閉じ、データベースエンジンとの接続を切断する。
- 接続していたユーザの接続スロットを解放する。
- アプリケーションを終了する。

データベースに接続する

データベースに接続する方法には、Windows NTに統合されたセキュリティを使用する方法と、使用しない方法の2つがあります。

注意:

AssetCenterセッションでは一度に1つのデータベースのみをオープンできます。ただし、AssetCenterの複数インスタンスを起動して、別のインスタンスによって異なるデータベースに接続することもできます。

Windows NTの統合セキュリティを使用せずに接続する

Windows NTの統合セキュリティを使用せずに接続するには：

- 1 [ファイル/データベースに接続] を選択します。
- 2 [接続] フィールドのドロップダウンリストから、既定の接続の1つを選択します。
- 3 [ログイン] フィールドに、管理者が [従業員] テーブル (SQL名 : amEmplDept) で定義した [ログイン] 名 (SQL名 : UserLogin) を入力します。
[ファイル/データベース接続の管理] メニューを使って、希望するデータベースに接続することもできます。接続を選択し [開く] をクリックします。

注意:

管理者として接続する場合は、「Admin」と入力します。

- 4 [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
データベースを初めて開く場合は、管理者に割り当てられたパスワードを使用します。データベースが一度開いた後は、[ツール/パスワードの変更] メニューでパスワードを変更できます。
- 5 [開く] をクリックします。

統合NTセキュリティを使用して接続する

この接続モードには以下の特徴があります。

- AssetCenter管理者は、最低でも1回AssetCenter Serverを起動している必要があります。
- Windows 2000、XPまたはServer 2003のクライアントワークステーションで利用できます。
- Windows 95、98とMEのクライアントコンピュータでは利用できません。
- Windows接続時のログインと同じログインでAssetCenterデータベースに接続します。

統合NTセキュリティを使用して接続するには：

- 1 [ファイル/データベースに接続]を選択します。
- 2 [接続]フィールドのドロップダウンリストから、既定の接続の1つを選択します。
- 3 [統合NTセキュリティ使用]チェックボックスをオンにします。
- 4 [開く]をクリックします。

ヒント:

この接続モードでは、[ログイン]と[パスワード]フィールドに値を入力する必要はありません。AssetCenterはWindowsのログインとパスワードを使用します。

データベースとの接続を切断する

[ファイル/データベースの接続解除]メニューを選択すると、開いたデータベースを閉じることができます。

変更を加えた場合、AssetCenterは変更事項を保存するかどうかをユーザに確認します。

AssetCenterの作業領域

ここでは、AssetCenterの作業領域について説明します。作業領域は常に表示され、アプリケーションの他のすべてのウィンドウがこの中に表示されます。

メニュー

メニューバー

AssetCenterのすべてのコマンドには、メニューバーからアクセスできます。

マウスを使用しない場合、[Alt] キーを押すとメニューバーがアクティブになります。

 **注意:**

起動できるメニューの内容は、ペレグリンシステムズのライセンス契約に応じて変化します。

状況依存（ポップアップ）メニュー

ショートカットメニューとは、作業中のプログラム部分に対して適用する項目から成るメニューです。このメニューを表示するには、作業中の領域で右ボタンをクリックして必要なメニュー項目を選択します。

マウスを使用しない場合、[Shift] キーと [F10] キーを同時に押すか、[Menu] キーを押すとショートカットメニューを表示できます。

ツールバー

ツールバーのアイコンをクリックすると、コマンドを選択できます。各アイコンを使用すると、メニューバーを経由せずにAssetCenterの機能を起動できます。

[ツール/ツールバーのカスタマイズ] メニューで、またはツールバーのアイコンのない部分を右クリックすると表示されるポップアップメニューで、ツールバーの設定を変更できます。

ステータスバー

作業領域の下部にはステータスバーがあり、以下の情報が左から右に順番に表示されます。

- 選択されているゾーン（アクティブフィールドまたは強調表示されているコマンド）に関する情報
- 開いているデータベースと使用しているログイン名
- 現在の操作モード（参照、作成、変更）
- 時刻

機能とお気に入りの枠

デフォルトでは、作業領域の左側に以下の2つのタブが付いたウィンドウ枠が表示されます。

- [機能] タブではAssetCenterの機能が機能ドメインごとに表示されます。メニューバーからアクセスできる主要機能には、このウィンドウ枠からもアク

セスできます。選択可能なAssetCenterの機能ドメイン（アクション、ビューなど）の全要素が枠内に表示されます。ウィンドウ枠内の内容は状況により変化します。

 **注意:**

[機能] タブの表示方法は設定できません。

- [お気に入り] タブでは個人的なお気に入り項目を保存できます。このタブから、頻繁に使用する画面、ビューやその他の要素に直接アクセスできます。お気に入りを作成するには、
 - 1 [機能] タブ内でお気に入りとして使用するリンクを選択します。
 - 2 右クリックします。
 - 3 ポップアップメニューから [お気に入りに追加] を選択します。
 - 4 リンクが作成され [お気に入り] タブ内に表示されます。

 **注意:**

[機能とお気に入り] の枠は、[ウィンドウ/機能とお気に入りの表示] によって表示と非表示を切り替えることができます。

表示の優先度

画面の表示は、以下の優先度に従います。

- 1 クエリウィザードが最も優先度が高い
- 2 ビューが次に優先度が高い
- 3 カスタマイズした画面が次に優先度が高い
- 4 システム画面が最も優先度が低い

例えば、[ポートフォリオ品目] 画面を表示した場合、クエリウィザードによってフィルタされます。ウィザードでフィルタ条件を指定した場合、表示される画面にクエリが反映されます。変更されないシステム画面を表示するには、フィルタされた画面を閉じて、クエリ条件を指定せずに再び開く必要があります。

ツールのヒント

マウスポインタをツールバーのアイコンなどの特定の領域にしばらく置くと、ツールのヒントが表示されます。

ツールのヒントの表示と非表示を切り替えるには、[編集/オプション/表示] メニューを選択します。

例

リストの列幅が狭いため列の値が途中で切れている場合、その値上にカーソルをしばらく置くと、完全なテキストが表示されます。

システム情報、インストール済みおよび認識されているコンポーネント

[Peregrine AssetCenterのバージョン情報] ボックスには、AssetCenterに関するすべてのシステム情報が表示されます。

[Peregrine AssetCenterのバージョン情報] ダイアログボックスを表示するには、[ヘルプ / AssetCenterのバージョン情報] を選択します。

コンピュータにインターネットブラウザがインストールされている場合は、<http://www.peregrine.com> [http://www.peregrine.com] ハイパーテキストリンクをクリックすると、Peregrine SystemsのWebサイトにアクセスできます。

[詳細] をクリックすると、コンピュータにインストールされているAssetCenter関連のパッケージとAssetCenterが認識しているパッケージを確認できます。

この画面には次の情報が表示されます。

- インストールされているソフトウェア（バージョン番号、説明、ソフトウェア名など）。[ソフトウェア] の下にまとめられています。
- クライアントのコンピュータ。[システム情報] の下にまとめられています。
- 現在開いているデータベースに関する情報
- AssetCenterと互換性のあるデータベースエンジンに必要なDLLまたは実行可能プログラム
 - DLL（ダイナミックリンクライブラリ）がインストールされている場合は、AssetCenterによって自動的に検出されます。2番目の列にそのライブラリへの完全パス、3番目の列に追加情報が表示されます。
 - DLLが検出されなかった場合は、2番目の列には、[ファイルが見つかりません。] というメッセージが表示されます。
 - DLLが検出されても、追加情報が検出されなかった場合は、2番目の列には [情報はありません。] というメッセージが表示されます。

情報をクリップボードにコピーするには、[コピー] をクリックします。インストール済みおよび認識されたパッケージの表示ウィンドウを閉じるには、[閉じる] をクリックします。

レコードリスト

本節の内容は次の通りです。

- リストの機能 [俊敏7]

- リストを使う [[俊敵7](#)]
- リスト内を移動する [[俊敵8](#)]
- レコードリストに関連するアクションボタン [[俊敵9](#)]
- 階層構造 [[俊敵9](#)]
- レコードの再編成：仮想階層 [[俊敵2](#)]
- リスト表示のパラメータ [[俊敵4](#)]
- リストのレイアウト [[俊敵4](#)]
- ドロップダウンリストのレイアウト [[俊敵9](#)]
- 統計の表示 [[俊敵0](#)]
- リスト内でレコードを検索する [[俊敵1](#)]
- リスト内でレコードを操作する [[俊敵1](#)]
- リストを出力する [[俊敵2](#)]

リストの機能

AssetCenterのデータベースには大量の情報が含まれています。このデータは、テーブル（資産、契約など）で分類されています。各テーブルには、テーブル内の各アイテム（資産、モデル、契約など）のレコードが含まれています。

これらのレコードに素早くアクセスできるように、AssetCenterプログラムではテーブルに含まれているレコードをリストとして表示します。特定のレコードに関する情報にアクセスするには、リストでそのレコードを選択します。

リストを使う

リストは、任意のテーブルのレコードを一覧表示するためのウィンドウです。このリストを使って、レコードを検索または変更したり、1つのレコードに関する詳細情報を表示することができます。

リストを表示するには、ツールバー上のボタン、または使用するテーブルに対応するメニューを使います。

 **注意:**

管理者は、[管理 / 画面一覧] メニューを使ってAssetCenterのリストの一覧を表示することもできます。

リスト内を移動する



リスト内を移動するにはいくつかの方法があります。これらの方法は、メインリスト（資産など）の場合も、詳細画面内のリスト（資産に関する契約など）の場合も同じです。

リスト内を移動する方法はいくつかあります。


- 編集メニューを使用する
 - 最初のレコード：[編集 / 最初のレコード]
 - 前のレコード：[編集 / 前のレコード]
 - 次のレコード：[編集 / 次のレコード]
 - 最後のレコード：[編集 / 最後のレコード]
- ファンクションキーを使う
 - リストの先頭：[Ctrl+F11] キー
 - 前のレコード：[F11] キー
 - 次のレコード：[F12] キー
 - リストの最後：[Ctrl+F12] キー
- キーボードを使う
 - リストの先頭：[Home] キー
 - 前のレコード：上向き矢印キー
 - 1ページ戻る：[Page Up] キー
 - 1ページ進む：[Page Down] キー
 - 次のレコード：下向き矢印キー
 - リストの最後：[End] キー
- 垂直または水平スクロールバーを使う

リスト内の読み込み用ボタン

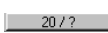
AssetCenterでは、デフォルトでリストに読み込まれるレコードの最大数を指定できます。このためには、[編集 / オプション] メニューの [リスト] 項目で [読み込む項目数の限度] に数を入力します。

オプションで指定されたレコードの最大数に応じて、上にある  ボタンを使うと前のレコードが表示されます。下にある  ボタンを使うと後続のレコードが表示されます。

[次をロード / 上へ] と [次をロード / 下へ] ショートカットメニューを使用しても同じ結果が得られます。

前のレコードまたは後続のレコードをすべて読み込むには、[Shift] キーを押したまま  ボタンをクリックします。

リスト内の読み込みのインジケータ

のボタンには、データベース内のレコード総数と、検索して読み込んだレコード数が表示されます。

右側の数字の位置に「？」マークが表示される場合は、ボタンをクリックして再計算します。



レコードリストに関連するアクションボタン


[新規作成] : 新しいレコードの詳細を入力できる空の詳細画面が表示されます。レコードは、[作成] ボタンをクリックするまで作成されません。

[複製] : 選択したレコードの情報を新しい詳細画面にコピーします。レコードは、[作成] ボタンをクリックするまで作成されません。

[削除] : 選択したレコードを削除します。

[詳細] : 選択したレコードの詳細を表示します。

[選択] : リストの右にあるボタンをクリックすると、別のテーブルのレコードを選択できるようになります。クリックすると、レコードのリストを含む選択ウィンドウが表示されます。リンクしたいレコードを選択した後に、[選択] をクリックして選択を確定するか、または [キャンセル] をクリックして選択を取り消します。ボタンは、[編集 / オプション] メニューの [ナビゲーション] 項目の [選択ウィンドウ] オプションが選択されている場合のみ表示されます。

 : メインリストの各列用の計算を実行します。

[閉じる] : ウィンドウを閉じます。

階層構造

AssetCenterの特定のテーブルは、階層構造になっています。各レコードにはサブレコードを、さらにサブレコードには独自のサブレコードを作成できます。ツリー構造内の階層レベルの数には制限がありません。

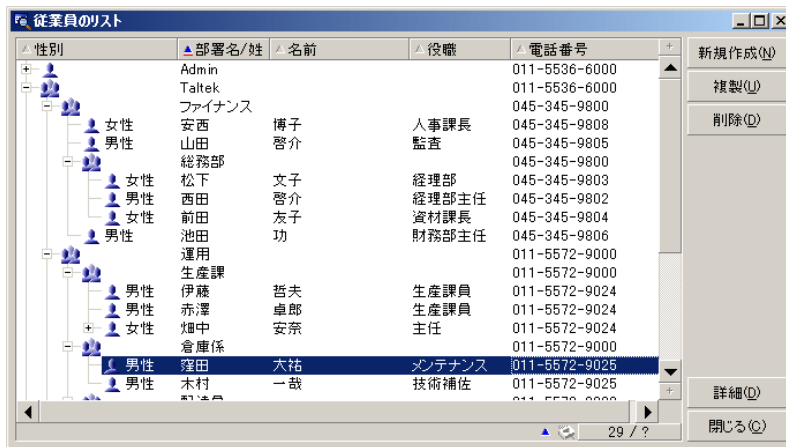
例

- 場所のテーブルでは、場所Aは、別の場所Bの「従属場所」になっている可能性があります。
- 資産のテーブルでは、ある資産は別の資産の「コンポーネント」になっている可能性があります。
- 部署と従業員のテーブルでは、「アジア地域営業部」には、「マーケティング」という従属部署が存在する可能性があります。この場合、「アジア地域営業部」は、「マーケティング」の「親」または「親部署」です。つまり、下の図に示すような「アジア地域営業部」*「マーケティング」という階層構造になります。

表示モード



階層構造のあるテーブルのレコード（モデル、場所、部署と従業員など）はリスト形式とツリー構造の2つの方法で表示できます。

図 2.1. 部署と従業員のテーブル - ツリー構造





表示モードは次の方法で選択できます。

- メインリストの場合は、[ウィンドウ / ツリー構造で表示] または [ウィンドウ / リスト形式で表示] メニューを選択します。
- メインリストまたは詳細画面内のリストの場合は、ポップアップメニュー（リスト内でマウスの右ボタンをクリックすると表示されます）から [ツリー構造で表示] および [リスト形式で表示] を選択します。

ツリー構造で表示している場合は、ツリーの  ボタンを使って下のレベルを表示したり、 ボタンを使って下のレベルを非表示にしたりすることができます。

また、マウスの右ボタンでリストをクリックすると、[階層の表示] オプションが表示されます。このオプションでは、表示する階層レベルを「1」、「2」、「3」、または「全レベル」の中から選択できます。リストのウィンドウを閉じるとこの設定内容は失われます。

表示モード用のボタンとショートカットキーは、次の通りです。

- リスト形式で表示 :  [Ctrl+L] キー
- ツリー構造で表示 :  [Ctrl+T] キー

ツリー構造のリストのナビゲーションモードを変更するには、[リスト / ツリー構造のノードを開閉するための矢印キー] オプションを選択します（ [編集 / オプション] ）。

その結果、次の動作が得られます。

目的の動作	対応する操作
ツリーノードの階層を表示	キーボード： <ul style="list-style-type: none"> ■ 右矢印 ■ キーパッド上の [+]
ツリーノードを非表示	キーボード： <ul style="list-style-type: none"> ■ 左矢印 ■ キーパッド上の [-]
親を選択	キーボード：左矢印
次の表示レコードを選択	キーボード：下矢印
前の表示レコードを選択	キーボード：上矢印
次の列を選択	キーボード：[Shift+右矢印]
前の列を選択	キーボード：[Shift+下矢印]

重要項目:

テーブルをツリー構造で表示するには、[フルネーム] (SQL名: FullName) フィールドと [階層レベル] (SQL名: sLvl) フィールドの読取り権限が必要です。

テーブルの階層構造を変更する

- 1 階層構造のテーブルを表示します。
- 2 [ウィンドウ/ツリー構造で表示] メニューを使って、リストをツリー構造で表示します。
- 3 リストを読みやすくする場合は、[ウィンドウ/リストのみ] メニューを使って、リストを「リストのみ」モードで表示できます。
- 4 目的のレコードに到達するまで、次のいずれかの方法でツリーを展開します。
 - 階層のノードをクリックします。
 - ポップアップメニューの [階層の表示] コマンドを使います。
- 5 移動するツリーの分岐点にあるレコードをクリックします。
- 6 このレコードを移動先の分岐点にあるレコードにドラッグします。
- 7 レコードのすべてのサブレコードが同時に移され、ツリー構造が保持されません。

または

- 1 テーブルを「リストと詳細」モードで表示します ([ウィンドウ/リストと詳細] メニューから選択します)。
- 2 移動するレコードを同一の親レコードから選択します。
- 3 親レコードを指定するフィールドを変更して、新しい親を選択します。
- 4 [変更] をクリックします。

レコードの再編成：仮想階層

階層表示が可能なのは階層構造のテーブルだけです。ただし、レコードをフィールドに基づいてグループ化することが可能です。これにより、仮想階層が作成されます。

注意:

グループ分けは、階層構造のテーブルと階層構造でないテーブルのどちらに対しても使用できます。

この機能は、表示と検索を便利にする効果があります。

例えば、[資産] テーブル (amAsset) はフラットモードでしか表示できません。仮想階層を作成すれば、作業指示に入力する際に、資産やその従属資産を選択するのが容易になります。

仮想階層の作成

フィールドまたはリンクによってフィールド内のレコードをグループ分けする機能もあります。その機能によって仮想階層を作成します。



レコードの詳細からグループ分けする

フィールドまたはリンクに基づいてレコードを再編成するには、次の手順に従います。

- 1 目的の画面を開きます。

画面がリストと詳細モードであることを確認します。

- 2 このフィールドまたはリンクを右クリックし、ショートカットメニューから [このフィールドでグループ分け] を選択します。

選択したフィールドに含まれる要素に基づいてリストが再構成され、 ボタンと  ボタンが使用可能になります。階層を定義している要素はグレーで表示されます。

例：

- 1 属性のリストを表示します（ [ポートフォリオ / 属性] ）。
- 2 画面の [全般] タブ内の [作成] フィールドを右クリックします。
- 3 [このフィールドでグループ分け] を選択します。
フラットリストが階層表示になります。

リスト設定からグループ分けする

注意:

この方法は、グループ化に使用するフィールドまたはリンクが詳細画面に表示されない場合に特に便利です。

リストの設定からレコードをグループ分けするには、次の手順に従います。

- 1 目的の画面を開きます。
- 2 リストを右クリックし、ショートカットメニューから [ユーティリティ / リストの設定] を選択します。
- 3 [グループ] フィールドで、グループ分けの条件となるフィールドまたはリンクを選択します。

例えば、[資産とロット] 画面のモデルに基づいて資産を表示するには、次の手順に従います。

- 1 [資産とロット] 画面を開きます。
- 2 リストを右クリックし、ショートカットメニューから [ユーティリティ / リストの設定] を選択します。
- 3 [グループ] フィールドで、モデル ([amPortfolioItem.Model]) リンクを選択します。

仮想階層のキャンセル

仮想階層をキャンセルするには、次の手順に従います。

- 1 グループ分けによって変更されたリストを右クリックします。
- 2 ポップアップメニューから [すべてをグループ解除] を選択します。

階層構造のテーブルのグループ分け

いくつかのテーブル、例えば [資産] テーブルと [ポートフォリオ] テーブルの間には特別な関係があるので、階層構造のテーブルが他のテーブルの階層を利用できる場合があります。

例えば、[ポートフォリオ] テーブルの階層を [資産] テーブルで利用するには、[Portfolio.Parent] リンクでグループ分けします。資産とロットのリストに、各資産の従属資産が表示されます。

注意:

この例では、階層を定義する要素はリストにグレーで表示されません。

リスト表示のパラメータ

次のように、AssetCenterには、レコードリストの表示方法を設定するパラメータが数多く存在します。

- 表示タイプ：「ツリー構造で表示」または「リスト形式で表示」
- 表示モード：「詳細のみ」、「リストのみ」、または「リストと詳細」
- リストの列見出しボタンを使ったリストの並べ替え
- リストの設定（[ユーティリティ/リストの設定]ショートカットメニュー）：
 - 列で表示するフィールドの選択
 - 並べ替え
 - フィルタ
 - グループ分け
- フィルタの適用
- ウィンドウサイズ

これらの設定は、ウィンドウを閉じるときに保存されます。リストのデフォルトの表示方法に戻すには、[Shift]キーを押したままにして、ツールバーのアイコンでテーブルを開きます。

リストのレイアウト

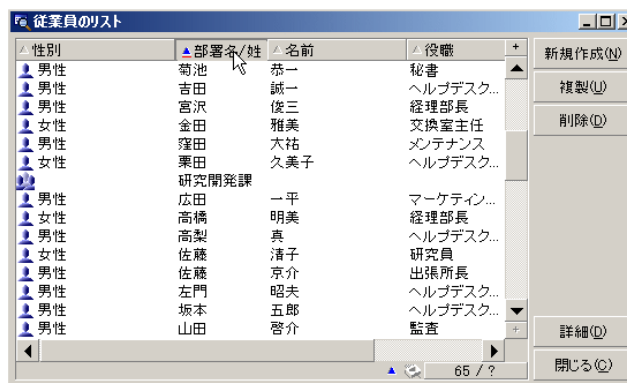
同じテーブルのリストを、異なる設定で表示することができます。

例えば、契約の詳細画面の[資産]タブページに表示される資産リストの表示パラメータを、[ポートフォリオ/資産とロット]メニューをから表示される同じリストと別にすることができます。

リストを簡単に並べ替える

リストの列見出しにはフィールド名の付いたボタンがあります。このボタンを使うと、対応するテーブルのレコードをこのフィールドの値に基づいてアルファベット順に並べ替えることができます。

図 2.2. 従業員のテーブル - リストの並べ替えツール



▲ をクリックしてその列の項目でリストを昇順で並べ替えます。▲ を2回目にクリックすると降順で並べ替えられます。直接降順で並べ替えるには、[Shift] キーを押しながらこのボタンをクリックします。

並べ替えの昇順と降順を切り替えるには、▲ と ▼ のボタンをクリックします。

▲ の赤い線は、インデックス付きで並べ替えられることを示しています。インデックスが付いている方がより速く並べ替えできます。

リストに列を簡単に追加する

詳細画面からリストに列を追加できます。オブジェクト（フィールドまたはリンク）を右クリックし、ショートカットメニューから [ユーティリティ / この列をリストに追加] を選択します。このオブジェクトの値が列に表示されるようになります。











リストから列を簡単に削除する

リストから列を簡単に削除することができます。列（フィールドまたはリンク）内の値を右クリックして、ショートカットメニューから [ユーティリティ / この列を削除] を選択します。

リストの列の幅を調節する

リストがアクティブな時に [F9] キーを押すと、表示できるサイズに応じて最大列サイズが取得されます。

列の右端をダブルクリックすると、その列のレコードのすべての値が完全に表示されるように、サイズが自動的に調節されます。この操作のショートカットキーは [Ctrl+F9] キーです。

-  フィールドを示します。
-  インデックス付きフィールドを示します。
-  金額値を示します。
-  と  リンクを示します。
-  任意管理項目を示します。
-  特殊フィールドを示します。
-  キーを示します。
-  コメントへのリンクを示します。
-  画像へのリンクを示します。

矢印のボタンを使用する代わりに、左側の一覧ウィンドウで項目をダブルクリックすると、その項目が右側の列一覧に追加されます。[OK] をクリックするとメインリストに列が追加されます。右側の一覧ウィンドウで項目をダブルクリックすると、その項目が列一覧から削除されます。

リストの上にあるフィールドにSQL名を記入すると、データベースディクショナリ内の要素を入力できます。このボックスに何文字か入力すると、AssetCenterが自動的に残りの文字を入力します。

右側の一覧

リストの並べ替えに使う、または表示する列項目の一覧です。

並べ替え

列見出しをクリックすると、その列に含まれる値の並べ替えが実行されます。1回目のクリックによって上向きの三角形が表示され昇順の並べ替えが実行され、2回目のクリックによって下向きの三角形が表示され降順の並べ替えが実行され、3回目のクリックによって並べ替えがキャンセルされます。

注意:

実際にリストを並べ替えるには、単純に列見出しをクリックします。[Shift] キーを押したまま列見出しをクリックすると、降順で並べ替えできます。

表示 / 非表示

チェックボックスをオフにすると、リスト内で該当列を非表示にすることができます。

例えば、「資産タグ」で並べ替えを実行するけれども、レコードリストには表示しない、または印刷しない場合は、非表示に設定することができます。

タイトル

この列を使うと、リストのデフォルトの列見出しを希望のタイトルに置き換えることができます。

色

この列では、リスト内でのレコード表示に使用する色を定義する特殊フィールドを選択できます。

テーブル内の特定のフィールド、特殊フィールド、任意管理項目など、複数のタイプのフィールドから選択できます。

色のフォーマットはRGBです。色のRGB値が分からない場合は、AmRgbColor() BASIC関数を使うと、使用する色の正しい値が割り出されます。

例

3ヶ月以内に終了する契約を表示するとします。

この場合は、次のように設定します。

- 1 次のパラメータによって特殊フィールドを作成します（[管理/特殊フィールド]メニュー）。

表 2.1. 特殊フィールド - 列の色

フィールド	値
[テーブル] (SQL名: TableName)	[契約] (SQL名: amContract)
[フィールドタイプ] (SQL名: seType)	[BASICスクリプト]
[結果のデータ型] (SQL名: seDataType)	[数値]
[計算スクリプト] (SQL名: memScript)	<pre>If AmDateDiff([dEnd],AmDate()) < 7776000. Then RetVal = AmRgbColor("RED") Else RetVal = AmRgbColor("BLACK") End If</pre>

- 2 [契約/契約]メニューを使って、契約のリストを表示します。
- 3 ショートカットメニューの[ユーティリティ/リストの設定]コマンドを使って、リストを設定します。
- 4 表示する列の一覧に、作成した特殊フィールドを追加します。
- 5 [色]列で、追加したフィールドのチェックボックスをオンにします。
- 6 [OK]をクリックしてこの設定を確認します。
- 7 [終了]フィールド (SQL名: dEnd) の値が現在の日付から3ヶ月以内になっている契約と、この値が3ヶ月を越える契約を比較して、この設定をテストします。

データ型

右側の一覧のこの列は、テキスト、数値、日付など、フィールドのデータ型を示します。実際のリストの並べ替えに使われたり、表示されることはありません。

インデックスで並べ替え

[インデックスで並べ替え] フィールドでインデックスを選択すると、上の一覧の [並べ替え] 列のチェックボックスで選択しなくても、一覧に並べ替えキーとして追加されます。

インデックスを並べ替えキーとして選択すると、必要な列が一覧に追加され、一覧で既に選択されている並べ替えキーの選択は解除されます。インデックスによっては、複数の列が一覧に追加される場合があります。

リストをインデックスで並べ替えると、速く処理できます。

一番下のオプション

[インデックスの強制使用] オプション

このオプションは、データベースに送信されるクエリで使用インデックスを指定するために選択します。

これにより、データベースエンジンが正確にインデックスを使用する可能性が高くなりますが、保証はされません。


[Nullを表示] オプション

このオプションを選択して数値以外のフィールドでリストを並べ替える場合に、このフィールドがNullに設定されたレコードが表示されます。

このオプションを選択しない場合、並び替えフィールドがNullに設定されたレコードが表示されません。

ドロップダウンリストのレイアウト

ドロップダウンリストは、次のいずれかの方法で詳細を表示することができます。

- フィールドの右側にあるをクリックする
- [Alt+下矢印] キーを押す

[編集 / オプション / ナビゲーション] メニューで表示される [ドロップダウンリスト内でツリー構造] オプションで「はい」を選択すると、ドロップダウンリストはツリー構造で表示されます。

- リストとして表示する場合の並び順は、ドロップダウンリストがアクセスしているテーブルの設定によって決まります。この設定は、AssetCenter Database Administratorの [特殊文字列] フィールドで行います。

- ツリー構造で表示されるときに、レコードが [完全名] を基準にしてアルファベット順で並び替えられます。

統計の表示

AssetCenterでは、リンクまたはフィールドに関する統計をグラフ化して表示することができます。

次の手順に従います。

- 1 カーソルをリスト内の列に移動するか詳細画面内のフィールドまたはリンクに移動します。
- 2 右クリックします。
- 3 列をクリックした場合は、ショートカットメニューの [ユーティリティ / この列に関する統計] を選択します。フィールドをクリックした場合は、[このフィールドに関する統計] を選択し、リンクをクリックした場合は、[このリンクに関する統計] を選択します。
- 4 別の画面に、統計が表示されます。
- 5 グラフ内のある項目をダブルクリックすると、新しいウィンドウが開いて該当レコードにフィルタを実行することができます。

注意:

この統計は、AssetCenterにより検出される最初の10件の値のみに限られています。残りの値は [その他の値] に含まれます。

統計グラフの表示

グラフの表示方法を何種類かの中から選択することができます。

グラフの表示方法を変更するには、マウスの右ボタンをクリックして、状況依存メニューから希望するオプションを選択します。

- グラフの種類
 - 縦棒
 - 横棒
 - 折れ線
 - 円
- 表示モード
 - 3D表示
 - 重ねて表示

グラフの凡例や背景を表示することも可能です。

リスト内でレコードを検索する

探している値を含むフィールドでリストを並べ替えると、次の手順に従って目的の項目を検索できます。

- 1 リスト領域内でマウスの右ボタンをクリックすると、ショートカットメニューが表示されます。
- 2 [ジャンプ]メニューをクリックし、検索する値の最初の数文字を入力します。残りの文字は、AssetCenterがデータベース内から最も近い値を探し出して自動的に入力します。
- 3 正しい値が入力されたら、[ジャンプ]ボタンをクリックします。キーボードで入力した値以上の値を持つリストの対応する項目上に、カーソルが移動します。



注意:

[ジャンプ]コマンドのショートカットキーは [Ctrl+G] です。

その他のレコード検索方法

- フィルタ：定義した検索基準（フィルタ）で検索し、その基準に一致するレコードのリストを表示できます。
- ビュー：フィルタとパラメータを組み合わせて検索し、レコードのリストを表示します。

リスト内でレコードを操作する

リスト内のレコードを選択する

リスト内のレコードを選択すると、レコードが強調表示されます。デフォルトでは、最初のレコードが選択されています。矢印キーでカーソルを移動するか、項目そのものをマウスでクリックして、別のレコードを選択できます。[Ctrl]キーまたは[Shift]キーを押しながらマウスをクリックすると、複数の項目を選択できます。

リスト内のすべてのレコードを選択する

リストが開いたら、[編集/すべて選択]メニューを使ってリスト内のすべてのレコードを選択します（キーボードショートカット：[Ctrl]+[A]）。

ツリー構造のリストでレコードを移動する

ツリー構造のリストでは、レコードをマウスでドラッグアンドドロップするだけで、ツリー内の別の位置に簡単に移動できます。項目をクリックしてマウスボタンを押したままカーソルを新しい位置に移動し、マウスボタンを放します。

これは、例えば [従属場所] (SQL名: SubLocations) フィールドや資産の [親資産] (SQL名: Parent) フィールドを変更するのと同じ効果があります。

フロアプランにオブジェクトを追加する

フロアプランを定義するときに ([ポートフォリオ/フロアプラン] メニュー)、別のリストのレコード (資産、従業員など) をドラッグ&ドロップして追加することができます。

フロアプランに直接要素をドラッグすることができます。また、詳細画面にアイコンが表示されている場合はそのアイコンをドラッグすることもできます。

フロアプランで要素を移動させるには、マウスを使います。


フロアプラン作成に関する詳細は、マニュアル『主要テーブル』の「フロアプラン」の章を参照してください。

リストを出力する

出力するリストを選択すると、フィルタで検索した場合はフィルタがかけられてからリストが出力されます。つまり、出力されるのは画面上に表示されているのと同じ列項目です。

最初に、出力したいメインリストまたは詳細画面のリストを特定し選択します (例えば、資産詳細の [契約] タブに表示されている資産にリンクされている契約のリストを出力したい場合)。出力に使用されるリストは、操作を開始したときに使用されるリストです。

メインリストまたは詳細画面内のリストを出力するには、ショートカットメニューから [ユーティリティ/リストの出力] メニューを選択します。

- 1 ダイアログボックスの [ファイル] フィールドに、出力するデータを保存するテキストファイルの名前、拡張子、およびパスを入力します。
 - データをテキストファイルに出力することを選択した場合、[ファイル] オプションを選択してから  ボタンをクリックして、出力するテキストファイルのパス名、ファイル名、および拡張子を選択します。
 - データをMicrosoft Excelスプレッドシートに出力することを選択した場合、[Microsoft Excel] オプションを選択します。出力時には、AssetCenterによって自動的にMicrosoft Excelが開始され、新しいワークシートに出力データが表示されます。

 **重要項目:**

Microsoft Excelはシステムにインストールされていなくてはなりません。AssetCenterでは、データを直接.xlsファイル（Microsoft Excelファイル）に出力することはできません。

- 2 データ出力オプションを次のように選択します。
 - テーブルの名前を出力テキストファイルの先頭またはMicrosoft Excelテーブルの最初の行に表示する場合は、[テーブル名の出力] オプションを選択します。

 **注意:**

出力ファイルをMicrosoft Accessで使う場合は、テーブル名を出力しないようにしてください。

- 列の名前を出力テキストファイルの先頭またはMicrosoft Excelテーブルの列のヘッダーに表示する場合は、[列見出しの出力] オプションを選択します。
 - [ID番号の出力] オプションを選択すると、レコードと共にID番号を出力できます。つまり、テーブルの [ID] フィールドを出力できます（例：資産とロットのテーブルの [IAstId] ）。
 - テキストファイルに出力する場合のみ、ドロップダウンリストの [区切り文字] を選択します。この文字によって、出力メインリストの各フィールドが区切られます。
- 3 [出力] をクリックします。

 **警告:**

データを出力する前に、すべてのAssetCenterユーザが [リストの出力] ショートカットメニューを使用してアクティブなリストを出力できます。AssetCenter Exportでは非常に複雑な出力手順を実行できますが、これを実行できるのはAssetCenterの管理者だけです。詳細に関しては、『AssetCenterの高度な使い方』を参照してください。

レコードの詳細情報

ここでは、AssetCenterのレコードの詳細画面にアクセスして、レコードの詳細情報を表示する方法について説明します。

内容は次の通りです。

- レコードの詳細画面にアクセスする [儻馱4]
- リストと詳細の組合せ表示 [儻馱4]
- ウィンドウのサイズを変更する [儻馱5]
- 詳細画面の主要ボタン [儻馱6]
- タブページ [儻馱7]
- レコード詳細内を移動する [儻馱9]

レコードの詳細画面にアクセスする

レコードリストを表示したら、希望の項目を選択してその項目をダブルクリックするか、[詳細] ボタンをクリックして、このレコードに関するすべての情報を表示します。情報は内容に応じてタブで分類されています。

情報は、各タブ内でフィールド、リンク、またはリストとして表示されます。リストには、好きなだけ項目を追加できます。例えば、資産の任意管理項目などを追加できます。

リストと詳細の組合せ表示

AssetCenterでは、選択した分野の情報を、リストのみ、詳細のみの画面で表示したり、リストと詳細の両方を同時に表示したりすることができます。

表示モードを切り替えるには、[ウィンドウ/リストのみ]、[ウィンドウ/詳細のみ]、または [ウィンドウ/リストと詳細] メニューを選択します。

図 2.4. 「リストと詳細」モードでの表示



表示モードには、次のショートカットキーが割り当てられています。

- リストのみ：[F6] キー
- 詳細のみ：[F7] キー
- リストと詳細：[F8] キー

注意:

「リストと詳細」モードでは、リストを横長モード（リストが詳細画面の上に表示されます）または縦長モード（リストが詳細画面の左側に表示されます）のどちらかで表示できます。2つのモードを切り替えるには、リストと詳細部分を除く画面上を右クリックし、[横長ウィンドウに切り替え] または [縦長ウィンドウに切り替え] ショートカットメニューを選択します。あるいは、リストまたは詳細の境界線上をダブルクリックします。

ウィンドウのサイズを変更する

AssetCenterでは、ウィンドウのサイズを変更できます。

マウスを、ウィンドウの境界または角に置きます。ポインタの形状が変化したら、ウィンドウの境界または角をクリックしてドラッグし、ウィンドウのサイズを変更します。

リストと詳細領域のサイズを変更するには、



- 1 ポインタを、リスト領域と詳細領域を分離する境界線上に置きます（ポインタの形状が変化します）。
- 2 マウスをクリックし、マウスボタンを押しながら、境界線を希望の位置までドラッグします。
- 3 マウスボタンを放します。

マウスを使用せずにメニューのサイズを変更するには、ウィンドウ内でコンポーネントを選択した後に、[Alt] キーを押してから左矢印キーと下矢印キーを続けて押します。


詳細画面の主要ボタン


[変更] : 詳細画面で加えた変更を保存します。



[作成] : 詳細画面の情報を新規レコードとして保存します。

 詳細画面の情報を新規レコードとして保存し、フィールドを初期化して、現在の特定のデータ項目に基づいて新規データを入力できるようにします。新規レコードを作成しても、 ボタンをクリックするまでレコードは有効になりません。または [作成] をクリックすると連続作成を終了できます。このボタンは、同様の情報を持つレコードを連続して作成する際に便利です。

[キャンセル] :

- レコードを作成している場合は、レコードの作成を取り消します。
 - レコードを変更している場合は、加えた変更を取り消し元の値に戻します。
-  選択した項目の詳細を表示します。

 リンクしているレコードを選択できる「選択リスト」を表示します。このボタンの表示 / 非表示は、[編集 / オプション] メニューの [ナビゲーション] 項目の [選択ウィンドウ] オプションで設定できます。表示されるリストは、リンクしているレコードの標準リストです。このリストのタイトルは、その内容によって変わります。例えば、資産 'bbb' のユーザを選択した場合は、部署および従業員のリストが表示されますが、ウィンドウのタイトルバーには、「従業員のリスト」ではなく「資産 'bbb' のユーザ」というタイトルが表示されます。

 リンクしているレコードを選択できるドロップダウンリストを表示します。リストに表示される値のタイプは、どのフィールドを使用しているかに応じて変化します。標準のメインリストを表示する  ボタンと異なり、ドロップダウンリストで表示されるリストは、項目が1つだけのリストです。

 左側のタブを表示します。

 右側のタブを表示します。

- ▣ 詳細画面のリストにレコードを追加します。例えば、ある資産に関連する契約のリストの場合は、資産の詳細画面の [契約] タブページにあります。
- ▣ タブページ内のリストからレコードを削除します。
- 🔔 ボタンの左側にあるフィールドにアラームを設定します。

タブページ

AssetCenterでは、データベースレコードの情報が「詳細画面」に表示されます。一部のタブにリンクレコードのリストが表示されます。例えば、契約の詳細内にある [資産] タブに、契約の対象となる資産が含まれています（ [契約上の資産] リンク (AstCntrDescs) ）。

これらのタブ内のレコードは別の形式で表示できます。

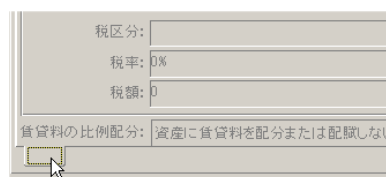
- タブ形式
- リスト形式

タブ形式を変更するには：

目的の動作（状況）	対応する操作
タブ形式でリストを表示（マウス使用時は推奨しません） （リストゾーン）	ショートカットメニュー： [タブ形式で表示]
テーブル形式でリストを表示（マウス使用時に推奨） （リストゾーン）	ショートカットメニュー： [リスト形式で表示]

テーブル形式で表示されるタブ内のレコードを操作するには、リストの右側にあるボタン、ショートカットメニュー、または一般メニューを使用します。

タブ形式で表示されるタブ内のレコードを操作するには、最初にタブのIDを選択し、ショートカットメニューまたは一般的なメニューを使用します。



次の操作を実行することができます。

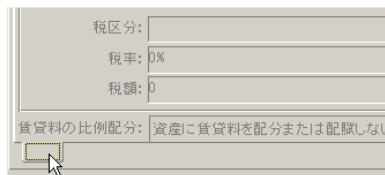
目的の動作（状況）	対応する操作	リスト形式で使用可能	タブ形式で使用可能
リンクを追加 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクを追加]	はい	はい
リンクを複製 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクレコードの複製]	いいえ	はい
リンクを削除 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクの削除]	はい	はい
リンクの詳細を表示 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクの詳細表示]	はい	いいえ
リンクをコピー （リストゾーン）	[Ctrl+C] キー [編集/コピー]メニュー	はい	いいえ
リンクを切り取り （リストゾーン）	キーボード： 1 [Ctrl+X] キー 2 [変更] ボタン 一般メニュー： 1 [編集/切り取り]メニュー 2 [変更] ボタン	はい	いいえ
リンクを貼り付け （リストゾーン）	キーボード： 1 [Ctrl+V] キー 2 [変更] ボタン 一般メニュー： 1 [編集/貼り付け]メニュー 2 [変更] ボタン	はい	いいえ
リンクを削除 （リストゾーン）	キーボード： 1 [Delete] キー 2 [変更] ボタン 一般メニュー： 1 [編集/削除]メニュー 2 [変更] ボタン	はい	いいえ

リンクされたレコードを説明するタブの名前は、タブ内のいずれかのフィールドに定義されています。

以下の複数リンクがいずれも作成されていない場合、タブは灰色になります。

1番目のリンクを追加すると、自動的にタブが有効になります。このリンクを追加するには、

- 1 未使用のタブを選択します。



- 2 右クリックします。
- 3 [リンクの追加]をポップアップメニューから選択します。
- 4 リンクに値を入力します。
- 5 [変更]をクリックします。

レコード詳細内を移動する

表 2.2. レコード詳細 - 移動

目的の動作 (状況)	対応する操作
詳細ゾーンの最初のフィールドまたはリンクを選択	キーボード： [Alt+F7] キー ショートカットメニュー： [移動 / 詳細]
次のフィールドまたはリンクを選択 (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード： [Tab]
前のフィールドまたはリンクを選択 (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード： [Shift+Tab]
タブまたはサブタブの名前を選択 (レコードウィンドウ)	キーボード： [Tab] キーを押しながら、 タブまたはサブタブの名前を選択する
次のタブを選択 (現在のタブのあらゆるコンポーネント (タブ、フィールド、リンク、ボタン名など)。現在のタブのサブタブのコンポーネントを除く)	キーボード： [Ctrl+Page down]
次のタブを選択 (タブの名前)	ショートカットメニュー： [次のタブ]

目的の動作（状況）	対応する操作
前のタブを選択 （現在のタブのあらゆるコンポーネント （タブ、フィールド、リンク、ボタン名など）。現在のタブのサブタブのコンポーネントを除く）	キーボード：[Ctrl+Page up]
前のタブを選択 （タブの名前）	ショートカットメニュー：[前のタブ]
ボタンゾーンの最初のボタンを選択 （レコードウィンドウ）	キーボード：[Alt+F8] ショートカットメニュー：[移動 / ボタン]
次のボタンを選択 （ボタン）	キーボード：[Tab]
前のボタンを選択 （ボタン）	キーボード：[Shift+Tab]
ボタンを有効化 （ボタン）	キーボード：[Enter]

表 2.3. 詳細画面のフィールド - ナビゲーション

目的の動作（状況）	対応する操作
フィールドの入力に使用するドロップダウンリストを表示 （フィールド編集ゾーン）	キーボード：下矢印
チェックボックスをオンまたはオフにする （チェックボックス）	キーボード：スペースバー
数値フィールドの値を1単位ずつ増やす （数値フィールド編集ゾーン）	キーボード：上矢印
計算機を有効化 （数値フィールド編集ゾーン）	キーボード：[Alt+下矢印]
数値フィールドの値を減らす （数値フィールド編集ゾーン）	キーボード：下矢印
通貨の値を編集 （通貨フィールド編集ゾーン）	ショートカットメニュー：[通貨の編集]
フィールドにアラームを設定 （データフィールド編集ゾーン）	ショートカットメニュー：[アラームの編集]
現在の日付と時間を挿入 （日付または日付と時間フィールドの編集ゾーン）	キーボード：[Ctrl+;]

表 2.4. 詳細画面のリンク - ナビゲーション

目的の動作 (状況)	対応する操作
リンクの入力に使用するドロップダウンリストを表示 (リンク編集ゾーン)	キーボード: [Alt+下矢印]
ドロップダウンリストではなくて選択ウィンドウでリンクを選択 (リンク編集ゾーン)	ショートカットメニュー: [リンクの選択]
リンクの詳細を表示 (リンク編集ゾーン)	ショートカットメニュー: [リンクの詳細表示]
リンクを削除 (リンク編集ゾーン)	ショートカットメニュー: [リンクの削除]

レコードの処理

ここでは、AssetCenterでレコードを作成および変更する方法について説明します。

内容は次の通りです。

- レコードを作成する [修飾1]
- レコードを変更する [修飾3]
- 複数のレコードを変更する [修飾4]
- 複数のユーザがレコードを変更する [修飾4]
- レコードを複製する [修飾5]
- レコードを削除する [修飾6]

遅延時間を定義すると、その時間が経過した後に現在の操作をキャンセルできるウィンドウが表示されます。この遅延時間はミリ秒で表され、アプリケーションオプション ([編集 / オプション] メニュー) の [編集] セクションの [待機メッセージを表示するまでの時間] オプションで定義します。

レコードを作成する

新規レコードを作成するには、まずレコードを追加する先のリストを表示します。

[新規作成] ボタンをクリックするとレコードを作成できます (ショートカットキー: [Insert] キー)。[複製] ボタンをクリックすると、リスト内で選択しているレコードを複製できます。

 **注意:**

新しいレコードを作成するために [新規作成] をクリックすると、デフォルト値が既に定義されているフィールドまたはリンクを除いて、空白の詳細が表示されます。

作成するレコードの情報を、次の方法で入力します。

- 最初の数文字を入力すると、データベースにこれらの文字で始まるレコードが存在する場合は、残りの文字が自動的に入力されます。入力する値がリストにない場合は、リンク先のテーブルに新しいレコードを作成するためのオプションが表示されます。
 - 仮作成：リンク先のテーブルに新規レコードが作成されますが、詳細は表示されません。後で残りの情報を入力できます。
このオプションは、[オプション / 仮作成の許可] メニューによって無効にすることも可能です。
 - 詳細設定：作成する新規レコードの詳細画面が表示されます。その場で新規レコードに関する情報を入力できます。
 - レコードを新規作成するときは、デフォルト値があればデフォルト値がフィールドまたはリンクに自動的に入力されます。デフォルト値が作成中レコードの詳細内にある他のフィールド（資産のモデルなど）を参照している場合は、参照先フィールドが入力されるまで、デフォルト値の該当部分が表示されません。これらのフィールドを定義する計算式は、レコードを新規作成するときのみ適用され、レコードの変更時には適用されません。
-

 **注意:**

AssetCenterウィンドウには複数のフィールドが表示されます。赤色の必須フィールドだけは必ず入力し、他のフィールドは必要に応じて入力してください。管理者は、[オブジェクトの設定] ショートカットメニューまたはAssetCenter Database Administratorを使って簡単に必須フィールドを定義できます。

図 2.5. レコードの作成



レコードの作成

レコードを変更する

詳細画面を使って、データベースの各レコードの情報を変更できます（リストで直接レコードを変更することはできません）。詳細画面では次の2種類の情報を変更できます。

- フィールド内の値を直接変更する。
- リンク情報を変更する。
 - フィールドの右側にある ▾ アイコン（ドロップダウンリスト）または アイコン（選択ウィンドウ）をクリックし、表示されるリストから別の値を選択する。
フィールドに別の値を入力する。
 - フィールドの右側にある 🔗 ボタンを使ってリンク項目の詳細画面を表示し、情報を変更する（例：サプライヤの電話番号などを変更する）。

レコードの詳細画面に表示される情報の多くは、他のテーブルからの情報です。他のテーブルと関連付けるため、プログラムは異なるテーブルのレコード同士をリンクします。あるレコードの情報を変更すると、そのレコードにリンクされているすべてのレコードも変更されます。この原理で動作するデータベースを「リレーショナルデータベース」と呼びます。この方法を使うと、データベース内の重複情報を最小限に抑えることができるため、情報の変更に要する時間が短縮され、ディスク容量も節約できます。

フィールドの値を変更すると、新しい値が別の色で表示され、新しい値を確定する [変更] ボタンとこれらの変更を取り消すための [キャンセル] ボタンが表示されます。

複数のレコードを変更する

選択している複数のレコードの情報を同時に変更することもできます。選択しているすべてのレコードに対して同じ値のみを変更できます。

リストを「リストと詳細」モードで表示し、リストから変更するレコードを複数同時に選択します。

詳細画面には次のフィールドが表示されます。

- 同じ値を含むフィールド：白い背景
- 異なる値を含むフィールド：灰色の背景

白い背景のフィールドの値を変更することができます。

注意:

もう1つの方法は複雑ですがとても便利です。レコードを出力してAssetCenter外で変更してから、そのデータをインポートし直します。詳細は「レコードリスト [倭猷6]」節の「リストを出力する [倭猷2]」を参照してください。

複数のユーザがレコードを変更する

AssetCenterでは、複数のユーザがデータベースに同時にアクセスできるため、2人のユーザが同じレコードを同時に編集、変更した場合に、レコードがどのように処理されるかを理解することが重要です。

AssetCenterの1人のユーザがデータベースを使っている間に、他のユーザが詳細情報を変更したり、新規レコードの追加やレコードの削除を行うことがあります。画面を再表示すると変更事項が表示されます。

しかし、リストまたは詳細画面を表示した後に他のユーザが変更事項を加えると、表示情報は [F5] キーを使用するか、または [ウィンドウ/更新] メニューを選択しないと更新されません。

フィルタを適用したり、リストの並べ替えや、ツリー表示とリスト表示の切り替えを行うと、リストは自動的に更新されます。また別のレコードの詳細画面を表示する場合も情報が更新されます。

AssetCenterでは次のような規則が適用されます。

- 複数のユーザは同じレコードを通常どおり編集でき、エラーメッセージも表示されません。
- ユーザが [変更] ボタンをクリックすると、各フィールドが個別に調べられ、画面上の値とデータベースに格納されている値が比較されます。
 - データベースの値と画面上の値が同じ場合は、そのままです。
 - データベースの値と画面上の値が異なる場合は、画面上の値がデータベースに保存されます。
- 2人のユーザが同じレコードの同じフィールドを変更した場合は、最後に変更を確定したユーザのコンピュータに警告メッセージが表示されます。最後に [変更] をクリックした人の変更が適用されます。
- [変更] をクリックすると、プログラムは次のように変更を処理します。数分の1秒間レコードがロックされ、プログラムが情報をデータベースに書き込む時間が確保されます。レコードのロック中は、他のユーザはレコードを編集できませんが、レコードを読み取ることはできます。
- ユーザがレコードを編集し、その間にレコードが別のユーザによって削除された場合は、レコードを編集中のユーザが [変更] ボタンをクリックしたときに、エラーメッセージが表示されます。
- レコードカウンタについて：レコードカウンタの数字は、ユーザが [新規作成] ボタンを押すたびに増加します。作成を確定せずに取り消し、他のユーザも [新規作成] ボタンを使わなかった場合は、カウンタは元の値に戻ります。ユーザが [新規作成] ボタンを押した後に、レコードの作成が取り消されても、カウンタは減少しません（実際のレコード数と一致しくなりません）。2人のユーザが [作成] を同時にクリックすると、カウンタの数値が2増えます。

特定のテーブルの場合は、特別な方法で更新を行います。



データベースに次回接続する時、または [ツール / キャッシュの更新] メニュー（ [Ctrl+F5] キー）を選択する時に更新されるキャッシュをオプションで定義できます。これらのキャッシュは接続の編集用画面で表示される接続キャッシュとは異なります。

レコードを複製する

レコードを複製するには、次の2通りの方法があります。

[複製] ボタンを使用する

レコードを複製するには、次の手順に従います。

- 1 リストからレコードを選択します。
- 2 [複製] ボタンをクリックします。新規レコードが作成され、元のレコードから情報の一部がコピーされます。
- 3 複製したレコードの詳細を編集して内容を確認してから、[作成]または  ボタンを使って作成を確定します。  ボタンをクリックすることは、[作成] ボタンした後で [複製] ボタンを続けてクリックするのと同じ操作です。

[編集 / 複製] メニューを使う

レコードを複製するには、次の手順に従います。

- 1 リストからレコードを選択します。
- 2 [編集 / 複製] メニューを選択します。
- 3 表示されるダイアログボックスで、コピー数を設定します。
- 4 [複製] ボタンをクリックして、複製を開始します。

[複製] ボタンをクリックした後で [作成] ボタンをクリックして、1つずつレコードを複製するのと同じ操作を、[編集 / 複製] メニューではまとめて1回で実行できます。

重要項目:

[編集 / 複製] メニューを使用する前に、必須フィールドにデフォルト値を指定し、「複製不可能」なインデックス用の固有のデフォルト値を作成する必要があります。場合によっては、データベース内で固有でなければならない値を含むレコードは複製不可能であることを知らせるメッセージが表示されます。カウンタとして使用されるフィールドにデフォルト値を適用することも大切です。

AssetCenter Database Administratorの [スクリプト] タブページ内には、[複製時にデフォルト値を再適用] チェックボックスがあります。ここで、複製時に AssetCenter がレコードを処理する方法を指定できます。

- チェックボックスがオフの場合：ソース値がコピーされます。
- チェックボックスがオンの場合：デフォルト値が適用されます。

レコードを削除する

削除するレコードを選択したら、[削除] ボタンをクリックして、リストからレコードを削除します(ショートカットキー：[Delete] キー)。これらのレコードが別のリストのレコードにリンクされている場合、エラーメッセージが表示されます。リンクされていない場合、レコードは削除されます。

 **注意:**

[拡張削除の許可] オプションをオンにすると ([編集 / オプション] メニュー)、リンクしているレコードを削除できます。

 **警告:**

一旦削除したレコードを元に戻すことはできないため、削除する前にその影響をよく考慮する必要があります。データベース内に間違っ作成したレコードか、ポートフォリオから消えた項目かなどを確認してください。削除するよりも、項目のステータスを変更したり、データベース内の別の場所に移動したりする方がよい場合もあります。

データの編集

内容は次の通りです。

- フィールドにデフォルト値を入力する [修繕7]
- 切り取り [修繕9]
- コピー [修繕0]
- 貼り付け [修繕0]
- テキストを削除する [修繕1]
- 日付のデータ入力規則 [修繕2]
- 時刻のデータ入力規則 [修繕2]
- 「日付+時刻」フィールドのデータ入力規則 [修繕2]
- 画像 [修繕3]

フィールドにデフォルト値を入力する

AssetCenterでは、レコードの作成時に特定のフィールドにデフォルト値を割り当てることができます。

どのフィールドに自動データ入力機能を適用するか、およびどの自動データ入力機能を使用するかは、AssetCenterの管理者が次のいずれかの方法で定義します。

- AssetCenter Database Administratorを使用する。
- または設定するフィールドに移動し、ショートカットメニューの [オブジェクトの設定] メニューを使用します (ショートカットキー : [Alt] + [Enter])。変更内容がデータベースに保存されるのは次の場合です。

- データベースとの接続を解除し、表示されるメッセージで設定を確認した場合。
- [ツール / 管理 / データベース設定の保存] メニューを選択した場合。

デフォルト値は、フィールド、変数、定数などを使う計算式から構成されることもあります。

 **注意:**

デフォルト値の詳細については、『カスタマイズ』ガイドの「フィールド、リンクとインデックスのカスタマイズ」を参照してください。

特殊フィールドの場合

[特殊文字列] および [BASICスクリプト] タイプの特殊フィールドは、標準フィールドのデフォルト値の計算にのみ使用できます。

[コメント] テーブルへのリンクの場合

[コメント] テーブル (SQL名 : amComment) へのリンクにはデフォルト値を割り当てられません。

リンクしているレコードの場合

テーブルに新規レコードを作成する時、リンクしているテーブル内のレコードを選択して、新規レコードの特定のフィールドに値を入力しなければならない場合があります。

 **重要項目:**

新規レコードを作成した後にリンクしているレコードのフィールドの値を変更しても、新規レコードのフィールドの値は変更されません。

[作成] ボタンをクリックした後で、新規レコードの詳細画面内にあるリンクしているレコードを選択しても、フィールドのデフォルト値は再計算されません。

管理者は、リンクしているレコードの情報を使って計算したデフォルト値を、テーブル内のフィールドに直接割り当てることができます。

これらのデフォルト値は、計算式に使う「リンクしているフィールド」に値を入力した時点で自動的に計算されます。

 **注意:**

AssetCenter Serverによって多くのタスクが自動的に実行されます。これらの自動機能の優先順位が、フィールドのデフォルト値より高い場合があります。

切り取り

AssetCenterでは、ユーザが次の操作を実行できます。

- テキストを切り取る [修飾9]
- 詳細画面内のリストからレコードを切り取る [修飾9]

テキストを切り取る

テキストを切り取りクリップボードに入れるには、切り取るテキストを選択し、[編集 / 切り取り] コマンドを使います。

 **注意:**

このコマンドのショートカットキーは、[Ctrl+X] キーです。

詳細画面内のリストからレコードを切り取る

この機能は、詳細画面の特定のタブページに表示されるリストで使うことができます（例：リース資産のリスト、特定の場所にある資産のリストなど）。

詳細画面のリストからレコードを切り取って、クリップボードに入れるには、次の手順に従います。

- 1 切り取るレコードを選択します。
- 2 [編集 / 切り取り] コマンドを使います。
- 3 [変更] をクリックして、変更を保存します。

 **警告:**

場合によっては、ターゲットレコードへのリンクだけが削除され、リンク先のレコードはそのまま残ることがあります（例：資産の詳細画面の [契約] タブページに表示される契約）。レコードそのものが削除されることもあります（例：資産の詳細画面の [コスト] タブページの経費明細）。

[編集 / 貼り付け] コマンドを使うと、クリップボード内のレコードを元に戻すことができます。

 **注意:**

メインリスト内のレコードおよび画像に [編集 / 切り取り] コマンドを使うことはできません。

コピー

AssetCenterでは、ユーザが次の操作を実行できます。

- テキストをコピーする [修飾0]
- リストからレコードをコピーする [修飾0]

テキストをコピーする

クリップボードにテキストをコピーするには、テキストを選択してから、[編集 / コピー] コマンドを使います。

 注意:

このコマンドのショートカットキーは、[Ctrl+C] キーです。

リストからレコードをコピーする

メインリストまたはタブページのリストからレコードをコピーするには、レコードを選択してから [編集 / コピー] コマンドを使います。

コピー時は、列の順序が維持されます。

 注意:

画像に [編集 / コピー] コマンドを使うことはできません。

貼り付け

AssetCenterでは、ユーザが次の操作を実行できます。

- テキストを貼り付ける [修飾0]
- 詳細画面内のリストにレコードを貼り付ける [修飾1]

 注意:

メインリスト内のレコードおよび画像に [編集 / 貼り付け] コマンドを使うことはできません。

テキストを貼り付ける

クリップボードからテキストを貼り付けるには、[編集 / 貼り付け] コマンドを使います。テキストは、カーソルのある場所に貼り付けられます。

**注意:**

このコマンドのショートカットキーは、[Ctrl+V]キーです。

詳細画面内のリストにレコードを貼り付ける

この機能は、詳細画面の特定のタブページに表示されるリストで使用できます（例：特定の場所にある資産のリストなど）。

クリップボード内のデータをタブページ内のリストに貼り付けるには、[編集/貼り付け]コマンドを選択してから、[変更]をクリックして変更を確定します。

詳細画面内のリストに貼り付ける前の注意事項

- ユーザは、コピーまたは切り取ったレコードのフィールドを、詳細画面のリストの列順に合わせて並べ替えることができません。そのため、貼り付け先のリストの列構造に対応するように貼り付けるデータを調整しておくことが重要になります。例えば、カーソルを詳細画面のリストの1列目に置いてデータを貼り付けると、1列目のデータは詳細画面のリストの1列目に、2列目のデータは、詳細画面のリストの2列目にというように、カーソルの位置を起点にして順番に貼り付けられます。
- 詳細画面のリストの列のうち、データの貼り付け先となる最初の列にカーソルを置き、貼り付ける列数と、貼り付け先の列数（貼り付け開始列から右方向に数えた列数）が同じであることを確認してください。
- 詳細画面のリスト内のレコードを選択したままレコードを貼り付けると、選択しているレコードが貼り付けたレコードに置き換えられます。置き換えない場合は、貼り付ける前に、リスト内のデフォルトで選択されているレコードなどの選択を必ず解除してください（選択を解除するには、[Ctrl]キーを押しながらレコードをクリックします）。
- メインリストのテーブルと詳細画面リストのテーブルの各フィールドが直接リンクされている場合は、詳細画面のリストにデータを貼り付けることができます。反対に、両方のテーブルのフィールドが直接リンクされていない場合は、詳細画面のリストにデータを貼り付けることはできません。例えば、資産と書類のテーブルはリンクしているので、資産の[書類]タブにデータを貼り付けることができます。しかし、契約の[資産]タブにデータを貼り付けることはできません。これは、契約のテーブルと資産のテーブルの間に中間テーブル[契約上の資産]があるためです。

テキストを削除する

クリップボードに切り取らずにテキストを削除するには、テキストを選択し、[編集/切り取り]コマンドを使います（ショートカットキー：[Del]キー）。

 注意:

リスト内のレコードおよび画像に [編集 / 貼り付け] コマンドを使うことはできません。

日付のデータ入力規則

- Windowsのコントロールパネルを使って、日、月、および年の入力および表示順形式を定義します。日付を入力するときは、定義した順番に従います。
- 年、月、日は毎回全て入力する必要があります。
- 日、月、および年を区切るには、スラッシュ (/)、コロン (:)、セミコロン (;)、またはスペースのいずれか1つを区切り文字として使います。
- 1桁の年、日、または月の前に「0」を入力する必要はありません。
- 年は2桁または4桁で入力できます (例: 1996または96)。00から49の数値は2000年から2049年になります。50から99の数値は1950年から1999年になります。
- 今日の日付を入力するには、[Ctrl+.] キーを押します。

時刻のデータ入力規則

時、分、および秒を使うことができます。

単位はコロン (:) で区切ります。以下に例を示します。

10:08:54

「日付+時刻」フィールドのデータ入力規則

これらのフィールドは、[日付] フィールドと別に処理されます。

[日付+時刻] フィールドの入力形式は次のとおりです。

Date[<Separator>[Hour]]

使用可能な区切り文字はピリオド (.)、スラッシュ (/)、セミコロン (;)、カンマ (,)、コロン (:)、ハイフン (-) のいずれかです。

Dateは日付を表す文字列で、シンタックスは次のとおりです。

xx<Separator>yy<Separator>zz

xx、yy、およびzzは、整数を表す文字列です。

Timeは時刻を表す文字列で、シンタックスは次のとおりです。

```
hour[<Separator>[minute[<Separator>[second[<Separator>[millisecond[<Separator>]]]]]]
```

hour、minute、second、millisecondは、整数を表す文字列です。

次の規則が適用されます。

- 月、日、および年の入力順序は、Windowsのコントロールパネルを使って定義する。日付を入力するときは、この順序に従います。
- 日、月、および年を系統的に入力する。
- 1桁の年、日、または月の前に「0」を入力する必要はありません。
- 年は2桁または4桁で入力できます（例：1996または96）。00から49の数値は2000年から2049年になります。50から99の数値は1950年から1999年になります。
- 今日の日付を入力するには、[Ctrl + .] キーを押す。

画像

AssetCenterでは、次の3種類の形式の画像をレコードに添付できます。

- 16色または256色のビットマップファイル（ファイル拡張子は.bmp）。素早く表示できるのが特長です。
- Windowsメタファイル（ファイル拡張子は.mtf）。ベクトル形式の画像で、表示に多少時間がかかりますが、サイズを変更しても画質が劣化しないのが特長です。
- アイコン（ファイル拡張子は.ico）

推奨する画像の詳細

- [写真] タブでは、3種類のどの形式の画像でも使用できます。
- レコードの種類を示すための小さな画像（レコードの詳細画面の左上にある小さな四角い画像）の最大サイズは、16×16ピクセルまでです。これらの画像には、「.bmp」形式の画像を使うようにしてください。
- ディスク容量を節約するため、16色の画像を使うようにしてください。

レコードに画像を関連付ける

レコードにリンクされた画像は、レコード詳細画面の左上隅に表示されます。画像を添付するには、次の操作を行います。

- 画像を挿入する領域をダブルクリックします。画像ファイルを選択したり新規作成したりできるウィンドウが表示されます。
- 画像の挿入領域を右クリックし、ショートカットメニューから[画像の選択]または[新規画像の選択]を選択します。画像ファイルの選択を要求する画面が表示されます。

画像を取り外すには、画像を右クリックしてショートカットメニューを表示し、[画像の削除] を選択します。

画像を保存する

画像はAssetCenterデータベースの [画像] テーブル (SQL名 : amlImage) に保存されます。

画像は添付した時点でAssetCenter専用の形式に変換され、バイナリオブジェクトの形に圧縮されます。

注意:

注：後で画像を編集する予定がない限り、添付する前の元の画像ファイルをディスクに保存しておく必要はありません。

3 | テーブル内で項目を検索する

本章では、AssetCenterでレコードをフィルタを用いて検索する方法について説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- クエリウィザードの使用
- 使用可能なフィルタの種類
- 一般的なフィルタの使用方法
- 検索を絞り込むために複数のフィルタを使用する

クエリウィザード (QBE)

テーブル内に保存されたデータは、AssetCenterインタフェース経由でユーザに表示されます。データの表示方法は内容、ユーザ設定、およびカスタマイズによって決まります。詳細画面、簡易リスト、ビューおよびウィザードなどが表示方法の例です。

画面またはビューを開くときに、ウィザードから適用されるクエリによって画面またはビューにあらかじめフィルタをかけることができます。

このウィザードは以下の働きをします。

- テーブルで用いられる主なフィールドを明らかにして、ユーザがこれらのフィールドに値を入力できるようにします。

- ユーザが入力した値をフィルタ条件としてクエリを迅速に実行し、該当データを表示します。

 **注意:**

クエリウィザードは、その他のウィザードと同様に、編集が可能で完全にカスタマイズできます（ [ツール / アクション / 編集] メニュー ）。

デフォルトでフィルタにかけられるテーブルは以下の通りです。

- 従業員
- ポートフォリオ品目
- コンピュータ
- 作業指示

実際に、すべてのテーブルにフィルタをかけることができます。

クエリウィザードでのデータの表示

クエリを実行すると、ウィザードで指定された条件に基づいてテーブルにフィルタがかけられます。

フィルタをかけずにすべてのデータを表示するには、次の手順に従います。

- クエリウィザードが表示されたら、次の手順に従います。
 - [キャンセル] をクリックします。
または
 - クエリウィザードのフィールドに何も指定せずに [終了] をクリックします。
- フィルタされた画面を使用するには、以下の手順に従います。
 - 画面を閉じて再び開きます。

クエリウィザードを無効にする

クエリウィザードを無効にするには、次の手順に従います。

- [クエリウィザードを有効にする] オプション（ [編集 / オプション / ナビゲーション] メニュー ）の値を変更します。

 **重要項目:**

このグローバルオプションによって、すべてのクエリウィザードを有効または無効にします。

クエリウィザードの動作

ユーザが画面またはビューを表示するたびに、AssetCenterによってクエリウィザードが画面またはビューにリンクされているかどうかチェックされます。このウィザードが呼び出されるためには、そのSQL名が以下の形式である必要があります。

- 画面の場合：
 - search<画面のSQL名>
例えば、[amAsset] テーブルに関連している [amAsset] または [amsysAsset] 画面が開かれた場合、アプリケーションは [searchamAsset] クエリウィザードを探します（ [amAsset] 画面はユーザが変更可能な画面であり、 [amsysAsset] 画面はシステム画面です）。
- ビューの場合：
 - search<ビューのSQL名>
例えば、SQL名Loginsのビューを開く場合、searchLoginsという名前のクエリウィザードが検索されます。

注意:

クエリウィザードの機能ドメインは、関連するテーブルの機能ドメインと同じです。

ウィザードの動作の詳細については、本マニュアルの[ウィザードの概要](#) [惨献5] を参照してください。

ウィザードの作成方法については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「ウィザード」の章の「クエリウィザード (QBE) の作成の例」の節を参照してください。

クエリウィザードの使用例

作業指示テーブル（ [ポートフォリオ / 作業指示] ）は、自動的にフィルタにかけられます。

クエリウィザードを使えば、このテーブルの最も重要なフィールドに基づいてクエリを実行できます。

- 作業指示番号
- ステータス
- 優先度
- タイプ
- 解決予定日

このウィザードの使い方は、テーブルがどのように入力されたか、および実現されている作業手順に依存します。

- 作業指示番号に基づくフィルタを使用するには、作業指示リストを参照できることが必要です。
- 解決予定日は、前、後、日付、例外の4つの条件に基づいてフィルタされません。これらの条件は例であり、変更可能です。

検索用フィルタの概要

レコードのリスト（従業員など）を表示するときは、リスト内のすべてのレコードまたは選択したレコードだけを表示することができます。レコードを選択するには、フィルタを使います。

ツリー構造またはリスト形式のいずれの場合でも、同時に複数のフィルタを使用することができます。

使用可能なフィルタの種類

フィルタには次の種類があります。




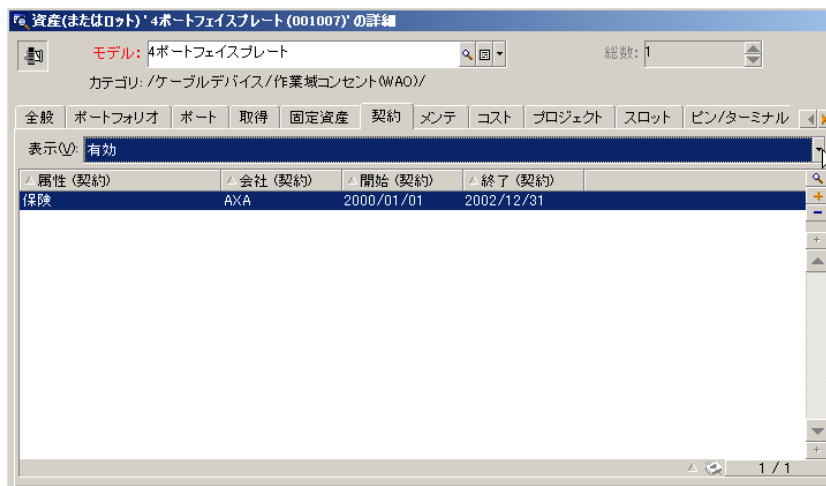

-  標準フィルタ：表示しているリスト専用の既定のフィルタです。例えば、部署と従業員のリストを表示している場合は、従業員のみ、部署のみ、または両方を表示できるフィルタを使用できます。
-  シンプルフィルタ：このフィルタでは、選択条件を1つだけ指定します。テーブルまたはリンクしているレコードに含まれている情報だけを選択条件として使います（例えば、従業員のリストの場合、選択条件として従業員名は使用できますが、配属先の場所は使用できません）。
-  クエリフィルタ：このフィルタではユーザが作成するクエリを実行します。クエリを使うと、リストまたはリンクしているテーブル内の複数の情報を選択条件として組み合わせることができます。
- 専用フィルタ：詳細画面の一部のタブページに、リンクされたレコードのリスト（任意管理項目または経費明細）が表示されます。場合によっては、このリストに特定のフィルタがドロップダウンリストに表示され、詳細画面に統合されます。フィルタの条件により、リストの一部のレコードのみを表示できるようになります。

図 3.1. 資産の対象となる契約用の専用フィルタ



フィルタの用途

リストには以下の数種のフィルタを同時に使用することができます。

- 状況に応じて自動的に適用されるフィルタ。詳細画面のフィールド値の組み合わせに応じて、表示される内容が変化します。例えば、リンクのドロップダウンリスト内に表示されるレコード値は自動的に状況に応じて変化します。ユーザは、フィルタが適用されていることは直接には分かりません。
- ユーザプロファイルの「アクセス制限」に応じて適用されるフィルタ。アクセス制限を適用すると、ユーザプロファイルのクエリで定義されている条件に一致するレコードだけが表示されます。ユーザには、これらのフィルタが適用されていることは直接分かりません。
- リストにフォアグラウンドで適用するフィルタ（シンプル、クエリ、標準、専用フィルタ）。これらのフィルタは、他で定義され、表示リストに特有のメニューからアクセスできます。ユーザにはこれらのフィルタが適用されていることが左側のフィルタ枠ではっきりと分かります。
- リストにバックグラウンドで適用するフィルタ。これらのフィルタは、ショートカットメニュー [リストの設定] の [フィルタ(WHERE句)] タブで定義します。この種類のフィルタが適用されると、 アイコンがリストの右下隅にカラーで表示されます（このアイコンを直接クリックすると、[フィルタ] タブが表示されます）。

フィルタの動作




- フィルタはリストに表示される行の数を減らしますが、列の数には影響しません。
- 階層構造になっているテーブルは、レコードの従属関係をツリー構造で表示することができます。フィルタ条件に一致するレコードは明確に表示され、一致しないレコードは灰色で表示されます。
- メインリストのフィルタを保存する場合は、ビューとして（[ツール]メニュー）保存します。
- フィルタを適用するには、フィルタの指定領域に表示される  アイコンをどれか1つ押します。このアイコンが表示されない場合は、指定したフィルタが自動的に適用されていることを意味します。アイコンが淡色  で表示される場合は、フィルタによる検索が既に行われたことを示します。フィルタ条件を変更または追加すると、通常アイコンに戻ります。
- データベースの変更事項をフィルタに反映させるには、[F5] キーを押すか、または [ウィンドウ/更新] コマンドを使います。
- 複数のフィルタを同時に適用すると、AND条件（ORではなく）で適用されます。フィルタで1つのレコードが表示される場合、そのレコードは複数フィルタのすべての条件を満たす必要があります。
- フィルタを定義する論理的条件を作成するには、以下の比較演算子を使用します。

表 3.1. 比較演算子

演算子	説明
すべて	条件に制約はありません（これは特定の場合にのみ表示されます。）
=	等しい
>	より大きい
<	より小さい
>=	以上
<=	以下
<>	等しくない
LIKE	= 演算子のように機能し、ワイルドカード文字（任意の文字列には%、固有の文字には_）を使用できます。例えば、場所のテーブルから「横浜ビル」の従属所在地を探すには、LIKE '横浜ビル/%' を使います。
NOT LIKE	

リストの使用


フィルタを使ってレコードを選択するには、次の2つの方法があります。

- フォアグラウンドで1つまたは複数のフィルタをメインリストに適用する。これらのフィルタの定義は、表示しているリストのウィンドウ左側に表示されます。
- バックグラウンドでクエリフィルタを全リストに適用する。このフィルタの定義はリストを表示するウィンドウには表示されませんが、 アイコンがカラーで表示されるため、フィルタが適用されていることが分かります。

注意:

この2つの方法を同時に使うこともできます。フォアグラウンドで1つまたは複数のフィルタを適用しながら、バックグラウンドで1つのフィルタを適用することも可能です。

フィルタを削除するには、以下の方法があります。

- リストに適用したすべてのフィルタを削除するには、ショートカットメニューまたは表示中のリストの専用メニューから [フィルタなし] メニューを選択します。
- 適用したフィルタの1つを削除するには、
 - 1 無効にするフィルタの定義上にマウスを置きます。
 - 2 マウスの右ボタンをクリックして、ショートカットメニューを表示します。
 - 3 [このフィルタを削除] を選択します。
- バックグラウンドで適用したクエリフィルタを削除するには、ショートカットメニューから [リストの設定] を選択し、表示される [フィルタ (WHERE 句)] タブページで  ボタンをクリックすると、バックグラウンドフィルタのAQL条件が削除されます。

注意:

AssetCenterはクエリの結果をできる限り高速で表示します。大量のレコードを含むデータベースでも、データ処理を最適化することにより、即時に結果を表示することも可能です。結果が表示される速度は、使っているデータベースエンジン、ネットワーク速度、およびデータベースのサイズによって異なります。


1つまたは複数のシンプルフィルタ適用する



シンプルフィルタはメインリストのみに適用されるため、フォアグラウンドのフィルタになります。

- 1 フィルタを適用するレコードのリストを表示します。
- 2 リストの専用メニュー（ [編集] の右側のメニュー ）から [シンプルフィルタ] コマンドを選択します。

リストの左上部分にフィルタ定義用の枠が表示されます。

注意:

フィルタを適用するフィールドまたはリンクにカーソルを置いて右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。 [このフィールドで検索] または、 [このリンクで検索] を選択します。  をクリックすると、対応するレコードがリスト内に表示されます。

- 3 フィルタを適用するオブジェクトを  右のドロップダウンリストから選択します。
- 4 ドロップダウンリストから比較演算子を選択します。
- 5 ドロップダウンリストで選択したオブジェクトと比較する値を入力します。
リンク先のテーブルが階層構造である場合、 [ナビゲーション] 項目の [ドロップダウンリストをツリー構造で表示] オプションを選択すると、リストの下にチェックボックスが表示されます。これをオンにすると、選択されたオブジェクトの従属項目にもフィルタが適用されます。
- 6  をクリックすると、フィルタが適用されたレコードが表示されます。
- 7 別のフィルタを適用するには、専用メニューから [フィルタの追加/シンプルフィルタ] を選択するか、リストを右クリックしてショートカットメニューから [フィルタの追加/シンプルフィルタ] を選択します。

クエリフィルタを作成する

- 1 リストを選択し表示します。
- 2 専用メニューまたはショートカットメニューの [クエリフィルタ] コマンドまたはショートカットメニューを使って、フィルタ定義用の枠を表示します。

- 3 フィルタ定義用の枠内の第1のフィールドにはドロップダウンリストがあります。リストから既存のクエリを1つ選択します。

フィルタ条件を定義するには、クエリのAQL式をテキスト用の枠内に入力します。


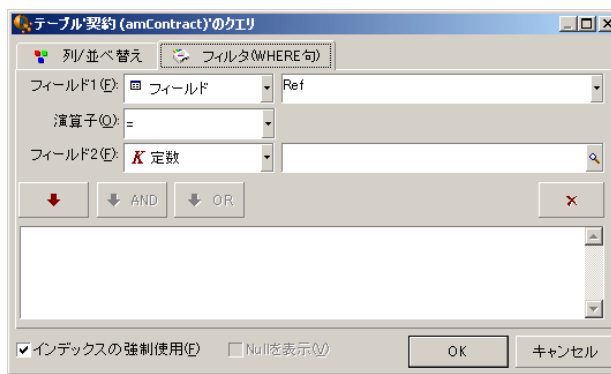

AssetCenterでクエリを簡単に作成するには、リスト内で右クリックしてショートカットメニュー [ユーティリティ/リストの設定] を選択するか、またはフィルタ定義用枠内の  をクリックします。

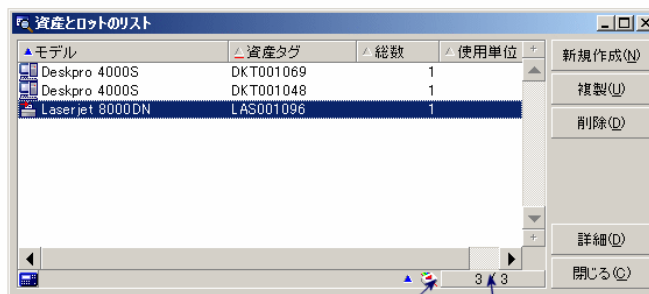
図 3.2. クエリの作成画面





- 1 [フィルタ] タブ内のフィールド1と2に値を入力し、フィルタの条件を定義します。演算子はこれらの2フィールドを論理的に比較します。

赤色の矢印をクリックすると、条件がクエリ内に挿入されます。  をクリックするとクエリは削除されます。クエリを確定するには、 [OK] をクリックします。


2 フィルタの適用された資産のリストは以下のようになります。



モデル	資産タグ	総数	使用単位
Deskpro 4000S	DKT001069	1	
Deskpro 4000S	DKT001048	1	
Laser jet 8000DN	LAS001096	1	

バックグラウンドでフィルタが使用されている(つまり[リストの設定]ポップアップメニューでフィルタが作成されている)と、アイコン  は  になります。

全フィルタで抽出されたレコードの総数の内、メモリに読み込まれたレコードの数。右側の数の代わりに「？」が表示される場合は、ボタンをクリックして再計算します。

4  をクリックします。

4 | ウィザードの概要

ウィザードにアクセスするには、[ツール / アクション / 編集] メニューを使い、[ウィザード] タイプのアクションを選択します。

ウィザードの定義

AssetCenterのウィザードを使うと、単純で繰り返す必要のあるタスクを簡単に実行できます。ユーザは、画面に表示されるグラフィックの指示に従って、タスクを段階的に処理することができます。AssetCenterには、例えば次のタスクを実行できる定義済みのウィザードが用意されています。

- 1つの場所から他の場所にユーザと資産を移動する。ユーザ（従業員）、対応する割当て資産および新しい設置場所を選択すると、ウィザードによってこの情報が取り込まれ、資産とユーザの場所が更新されます。
- 在庫を簡単に管理する。在庫中の資産、ユーザ、設置場所を選択すると、ウィザードによって、資産が選択された従業員と設置場所に割り当てられます。
- 特定のアクションを実行するために必要な情報を収集する。
- レコードの入力を効率的に行う。

注意:

AssetCenterに付属しているウィザードを使用するだけでなく、独自のウィザードを作成することもできます。

ウィザードのユーザ

ウィザードは、通常のユーザだけでなくパワーユーザにとっても非常に便利な機能です。

- 通常のユーザは、AssetCenterの複雑なメカニズムを理解することなく複雑なタスクを実行できます。
- パワーユーザは、独自のウィザードを作成するか、社内のニーズに合うように既存のウィザードをカスタマイズできます

ウィザードの分類

ウィザードには、次の2つの種類があります。

- AssetCenterデータベースと情報を交換するウィザード
- データベースと関係がないウィザード（独立ウィザード）

AssetCenterデータベースと情報を交換するウィザード

このウィザードには、次の2つのタイプがあります。

データ入力ウィザード

このウィザードは、データベースへのデータ入力とデータからのレコード作成を素早く行うことを目的としています。例えば、「新しい従業員/部署」ウィザードは、部署と従業員テーブルにレコードを作成する手順を示します。従業員または部署に関する情報は、ウィザードによって収集され、対応するレコードが作成されます。ユーザは、詳細画面に直接情報を入力する必要はありません。ウィザードが実行します。

データ収集ウィザード

特定のアクションでは、AssetCenterデータベースの値または変数の値が必要です。データ収集ウィザードを使うと、必要な情報を簡単に収集し表示できます。例えば、「移動」ウィザードでは、移動する資産、これらの資産のユーザ、新しい設置場所に関する情報が収集されます。この情報に基づいて、データベースのデータが変更されます。

独立ウィザード

独立ウィザードは、基本的に、計算の実行や情報の表示に使われます。例えば、ユーザが入力した2つの値の合計を計算する「合計」ウィザードを作成することができます。

5 | スケジュールのグラフィック表示

概要

スケジュールのグラフィック表示とは

スケジュールのグラフィック表示とは、開始日時と終了日時、場合によっては期限を含むイベントを表記する機能です。

これらのイベントは、1つの独立したレコードまたは複数のレコードに関連します。

例

- 従業員の不在
- 契約期間

スケジュールのグラフィック表示のページは、単純なデータ（開始日時、終了日時、場合によっては期間）を表示するだけです。

このページには、緻密な計画作成の機能（全工程の管理など）はありません。

スケジュールのグラフィック表示がデフォルトで設定されている箇所

スケジュールのグラフィック表示は、デフォルトで以下のテーブルの詳細画面で使用可能になっています。

- 従業員（SQL名：amEmpIDept）：[不在] タブでは不在を表示できます。

- 作業指示（SQL名：amWorkOrder）：[プレビュー]タブでは、スケジュール付きの作業指示を表示できます。
- 契約（SQL名：amContract）：[プレビュー]タブでは、契約でスケジュールが規定された作業指示を表示できます。
- プロジェクト（SQL名：amProject）：[プレビュー]タブではプロジェクトを表示できます。

スケジュールのグラフィック表示のページを追加できる箇所

スケジュールのグラフィック表示のページを、以下の箇所に追加することができます。

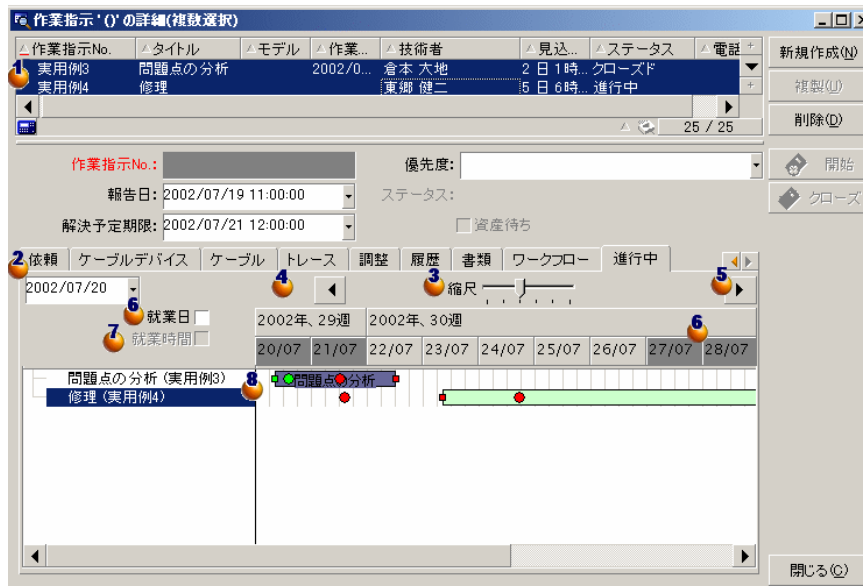
- テーブルの詳細画面（AssetCenter Database Administratorを使って追加する）
- ウィザード（AssetCenterを使って追加する）

追加は、少なくとも以下の情報がある場合に可能になります。

- 開始を格納するフィールド（日付のみまたは日付と時刻）
- 終了を格納するフィールド（日付のみまたは日付と時刻）

スケジュールのグラフィック表示のページの使用

図 5.1. スケジュールのグラフィック表示 - 画面



- 1 レコードを複数選択してスケジュールをグラフィック表示します。
- 2 8 の枠の一番左側に表示する最初の日付を選択します。
- 3 時間の縮尺を変更するには、スライダを左右に移動させるか、スライダの右側か左側をクリックするか、8 枠をアクティブにしてから [Ctrl] を押しながらマウスホイールを回します。
- 4 時間縮尺を左に移動する（前の時間に移動する）には、4 をクリックするか、8 枠をアクティブにしてからマウスホイールを上に戻します。
- 5 時間縮尺を右に移動する（後の時間に移動する）には、5 をクリックするか、8 枠をアクティブにしてからマウスホイールを下に戻します。
- 6 [就業日] オプションをオンにすると休日为非表示になります。オフの場合休日は濃灰色で表示されます。[就業日] オプションは、3 の [縮尺] に応じて使用可能または使用不可能になります。

7 [就業時間] オプションをオンにすると勤務時間のみが表示されます。[就業時間] オプションは、3の [縮尺] に応じて使用可能または使用不可能になります。

8 1 のリストで選択されたレコードに関連するイベントのグラフィック表示。

- 横棒 は、イベントの開始と終了の間の期間を表しています。

イベントの開始と終了を定義するフィールドは、スケジュールのグラフィック表示のページで定義される内容に依存します。

横棒 上にポインタを置くと、イベントの重要な情報がヒントで表示されます。

横棒 をサイズを変えずに (すなわち、イベントの期間を変更せずに) 移動させるには、マウスで棒を選択して動かします。イベントの開始と終了の日付のみが変更され、イベントの期間はそのままになります。

開始日時のみを変更する場合は、横棒 の左側にマウスポインタ置きます。ポインタの形状が変化したら、左ボタンをクリックしてポインタを移動させます。終了日時は変更しません。

終了日時のみを変更する場合は、横棒 の右側にマウスのポインタを置きます。ポインタの形状がサイズポインタに変化したら、ポインタをドラッグしてバーのサイズを変更します。開始日時は変更しません。

データベースに変更事項を保存するには、[変更] ボタンで確定する必要があります。

イベントの詳細を新しいウィンドウに表示するには、 をダブルクリックします。

テーブル構造によっては、イベントをある行から別の行にドラッグできる場合があります。スケジュールのグラフィック表示-画面 [参照1] の図の例では、これによって作業指示を別の技術者に割り当てます。

- 赤色の丸印 ● と緑色の丸印 ● は期限を表します。これは、スケジュールのグラフィック表示のページ用に期限が定義されている場合です。例えば、作業指示の [解決予定期限] (SQL名: dtResolLimit) フィールドで定義する場合などです。「従業員の不在」の場合には表示されません。

期限が遵守されていない場合、丸印は赤になります。

期限が遵守されている場合は緑色になります。



- 赤い角印 ■ と緑の角印 ■ は、期限が存在することを表します。各角印は、同じ色の丸印に関連付けられています。

イベントの開始時に期限が定義されていると、角印は横棒 の左に位置します。


イベントの終了時に期限が定義されていると、角印は横棒 の右に位置します。

角印が関連する期限が遵守されていない場合、角印は赤になります。

期限が遵守されている場合は緑色になります。

- 緑の三角形▶と◀は、表示パラメータのために🎯枠に表示されないイベントを示します。
- 赤い角印  は、2つのイベントが重なる領域を示します。
- 緑のバー  は、イベントの進行割合を示します。

⚠ 警告:

進行状況バーが表示されるのは、バー  が画面内に完全に含まれている場合だけです。

実用例

以下の実用例では、スケジュールのグラフィック表示の機能を説明します。

実用例の手順

実用例では以下の操作を実行します。

- 1 グループを1つ作成する
- 2 技術者を2人作成する
- 3 作業指示を2つ作成する
- 4 作業指示の重要な日付を表示する
- 5 重要な日付の一部を画面で変更する

手順1 - グループの作成

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 デモ用データベースへ接続します。
- 3 グループのリストを表示します（ [ポートフォリオ/グループ] ）。
- 4 グループを1つ作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

フィールドの名前	フィールドのSQL名	値
名前	Name	実用例 - グループ

- 5 ウィンドウを閉じます（ [閉じる] ボタン ）。

手順2 - 技術者の作成

- 1 従業員のリストを表示します（ [ポートフォリオ/部署と従業員] ）。

- 2 従業員を2人作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

タブ	フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	作業指示1の値	作業指示2の値
	名前	Name	森川俊三	田中俊夫
グループ	グループのメンバー	EmplGroups	実用例 - グループ	実用例 - グループ

- 3 ウィンドウを閉じます ([閉じる] ボタン)。

手順3 - 作業指示の作成

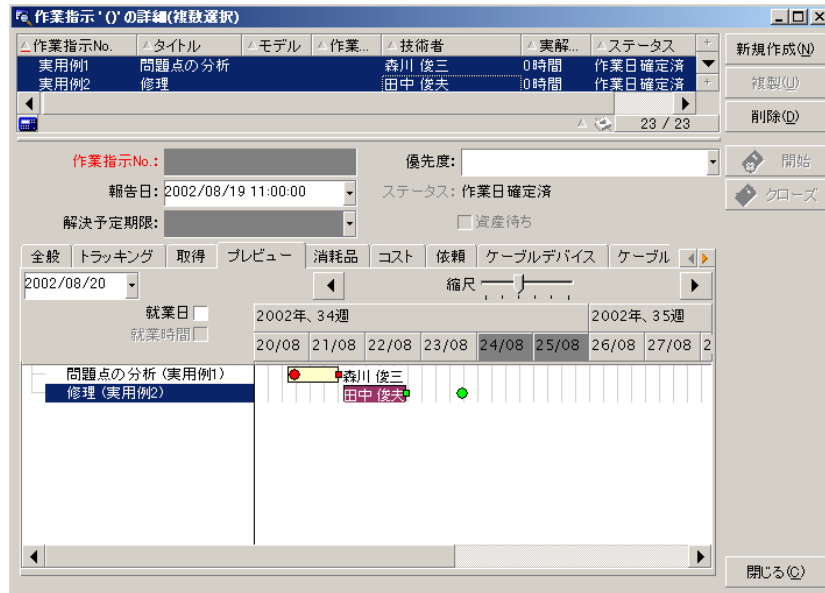
- 1 作業指示のリストを表示します ([ポートフォリオ / 作業指示])。
- 2 作業指示を2つ作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

タブ	フィールドの名前	フィールドのSQL名	作業指示1の値	作業指示2の値
	作業指示No.	WONo	CP1	CP2
	報告日	dtNotif	2002/08/19 11:00:00	2002/08/19 11:00:00
	解決予定期限	dtResolLimit	2002/08/20 17:00:00	2002/08/23 17:00:00
全般	タイプ	seType	内部メンテナンス	内部メンテナンス
全般	タイトル	Title	問題点の分析	修理
トラッキング / 技術者	技術者	Contact	森川俊三	田中俊夫
トラッキング / スケジュール	開始予定日	dtSchedFixStart	2002/08/20 14:00:00	2002/08/21 14:00:00
トラッキング / スケジュール	終了予定日	dtSchedFixed	2002/08/21 12:00:00	2002/08/22 17:00:00

手順4 - 2つの作業指示のスケジュールの表示

- 1 実用例1と実用例2の作業指示を両方選択します。
- 2 [プレビュー] タブページを選択します。

図 5.2. スケジュールのグラフィック表示 - 作業指示での例



- 3 [縮尺]スライダと、 および ボタンを使って、2つの作業指示の全期間を表示します。

[縮尺]スライダを使う代わりに、 枠を有効にしてから [CTRL] キーを押しながらマウスホイールを回すこともできます。

また、 および ボタンの代わりにマウスホイールを使うこともできます。

ページの解読方法は以下の通りです。

- 横棒 は、作業指示の開始予定日 (SQL名: dtSchedFixStart) と終了予定日 (SQL名: dtSchedFixed) を表しています。
横棒の色は、選択された技術者に応じて変化します。
- 赤い丸印 と緑の丸印 は、期限 ([解決予定期限] (SQL名: dtResolLimit) フィールドの日付) を表しています。
- 赤い角印 と緑の角印 は、期限が存在することを表しています。
- 作業指示「実用例1」の丸印 と角印 は、終了予定日 (SQL名: dtSchedFixed) が解決予定期限 (SQL名: dtResolLimit) よりも後のため、赤色になっています。
- 作業指示「実用例2」の丸印 と角印 は、終了予定日 (SQL名: dtSchedFixed) が解決予定期限 (SQL名: dtResolLimit) よりも前のため、緑色になっています。

手順5 - 日付を画面で変更する

- 1 作業指示のリストを表示します（[ポートフォリオ / 作業指示]）。
- 2 実用例1と実用例2を両方選択します。
- 3 [プレビュー] タブページを選択します。
- 4 「実用例1」の横棒 の内側にマウスのカーソルを置き、左ボタンで横棒全体を移動させます。
変更事項を [変更] ボタンを使って確定します。
[開始予定日] と [終了予定日] フィールドが変更されます。
- 5 「実用例2」の横棒 の左側にマウスポインタを置くと、ポインタの形状が変化します。左ボタンをクリックしてポインタを移動させます。
[開始予定日] フィールドの値は変更されますが、[終了予定日] フィールドは変わりません。
- 6 バーをダブルクリックすると、作業指示の詳細を表示した新しいウィンドウが開きます。

スケジュールのグラフィック表示のページ機能をカスタマイズする

スケジュールのグラフィック表示の全ページの機能を設定するオプションは、[編集 / オプション] メニューの [表示 / スケジュールのグラフィック表示] 項目で定義できます。

注意:

土曜日と日曜日だけが休日として表示されます。これは変更不可能です。

6 データの印刷

本章では、AssetCenterでデータを印刷する方法について説明します。

[ファイル/印刷]メニューまたは[Ctrl+P]キーを使うと、フィルタや列の設定内容を適用して、全メインリストまたはレコードの一部を印刷できます。

AssetCenterでは2つのレイアウトを使用できます。

- 内部書式：この書式用のリストや詳細のテンプレートは書式のテーブルに含まれています。

[ツール/レポート機能/書式]メニューで書式のテーブルにアクセスすると、書式を作成、変更または削除できます（『AssetCenterの高度な使い方』マニュアルの書式に関する章を参照してください）。

- Crystal Reportsのレポート書式：この書式用のリスト、詳細、グラフ、例のテンプレートはレポートのテーブルに含まれています。

使用可能なレポートを参照するには、[ツール/レポート機能/レポート]メニューでレポートのテーブルを開きます。Crystal Reportsでは新規レポートを追加作成できるため、内部書式よりも多彩な書式の設定が可能になります。

リストの情報を印刷する

- 1 メインリストを表示します。
- 2 [ファイル/印刷]メニューを選択します(ショートカットキー：[Control] + [P])。

- 3 [タイプ]のドロップダウンリストから、書式を1つ選択します。
 - 詳細（内部）：メインリスト全体または選択したレコードの情報を、「詳細」テンプレートに基づいて印刷します。

[書式]フィールドには、印刷するメインリスト用の詳細書式（[書式]テーブルから選択されます）が表示されます。書式は印刷の内容と書式を指定します。
 - リスト（内部）：メインリスト全体または選択したレコードの情報を、「リスト」テンプレートに基づいて印刷します。

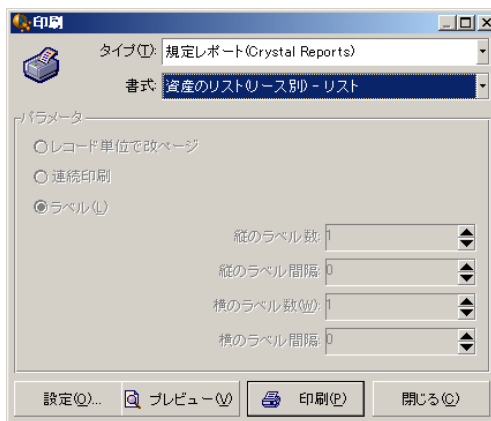
[書式]フィールドには、印刷するメインリスト用のリスト書式（[書式]テーブルから選択されます）が表示されます。書式は印刷の内容と書式を指定します。
 - 詳細レポート(Crystal Reports)：メインリストの1レコードを、詳細テンプレートに基づいて印刷します。

複数のレコードを印刷するには、各レコードごとに印刷の手順を繰り返す必要があります。印刷用ダイアログボックスの[書式]フィールドには、参照テーブル付きのレポートが表示されます。ここに表示されるレポートの[テーブル]（SQL名：TableName）フィールド（[レポート]テーブル内）は、印刷する現在のテーブルに一致します。レポートは印刷の内容と書式を指定します。
 - 規定レポート(Crystal Reports)：全てのレポート用テンプレートから印刷するテンプレートを選択できます。

選択されている現在のメインリストとは無関係に印刷が実行されます。印刷用ダイアログボックスの[書式]フィールドには、参照テーブルを明記しないレポートが表示されます。[レポート]テーブル内の[テーブル]（SQL名：TableName）フィールドが空の場合のみ、レポートがこのフィールドに表示されます。レポートは印刷の内容と書式を指定します。
- 4 [書式]のドロップダウンリストから書式を選択します。
- 5 [印刷]をクリックします。

複数レコードの詳細を印刷する

[タイプ] (SQL名: Type) フィールドで「詳細 (内部)」を選択し、メインリストの複数レコードを印刷する場合、以下の3つのオプションから1つを選択する必要があります。



- レコード単位で改ページ：各レコードの詳細を改ページして印刷します。
- 連続印刷：改ページせずに、各レコードの詳細を連続して印刷します。
- ラベル：以下のパラメータに基づき、各レコードの詳細にラベルを付けて印刷します。
 - 縦のラベル数
 - 縦のラベル間隔：ラベルの行間隔をミリメートル単位で設定します。
 - 横のラベル数
 - 横のラベル間隔：ラベルの列間隔をミリメートル単位で設定します。

注意:

レコードを1つしか選択しない場合は、これらのパラメータは不必要なため使用不可能になります。

印刷プレビュー

印刷プレビューを表示するには、[プレビュー] をクリックします。

印刷プレビューウィンドウでは次の操作を行うことができます。

- 使用するプリンタの変更（ [設定] ボタン ）
- 書式の余白および拡大 / 縮小率の変更（ [ページ設定] ボタン ）
- データの印刷（ [印刷] ボタン ）
- 書式の他のページの表示（ [次ページ] ボタンおよび [前ページ] ボタン ）

7 | 参考情報

接続

データベースへの接続を作成する

- 1 [ファイル/データベース接続の管理] メニューを選択します。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [接続] タブページに入力します。
 - 1 [名前] フィールドに、接続の名前を入力します。ここで指定した名前は、[ファイル/データベースに接続] メニューのダイアログボックスに表示されます。
 - 2 [説明] フィールドには接続の簡単な説明を記入します。
 - 3 [エンジン] フィールドのドロップダウンリストから、データベースエンジンを選択します。
- 4 エンジン固有の情報を入力します。
 - [データソース] : IBM Database Universal ServerまたはMicrosoft SQL Server データベースへのアクセスを可能にするODBC



MSDEデータベースの場合、Microsoft SQL Serverを選択します。

- [サーバ] : データベースを格納しているOracleまたはSybase SQL Serverのサーバの名前
- [データベース] : ODBC接続名 (IBM Database Universal ServerまたはMicrosoft SQL Server) またはデータベース名 (Sybase SQL Server)
- [ユーザ] : データベースへのアクセス時にユーザを識別するログイン名 (IBM Database Universal ServerまたはMicrosoft SQL Server)
- [Oracleのアカウント] : 接続に使うOracleアカウントの名前。ログインとして使います。
- [Sybaseアカウント] : 接続に使うSybase SQL Serverの名前。ログインとして使います。
- [パスワード]
- [所有者] : データベースの所有者。データベースに送信するSQLステートメントの接頭語として使用されます。

5 [作成] をクリックします。

AssetCenterのすべてのユーザが、特定のデータベースへの接続を、異なる名前を使って複数作成できます。そのためには、[新規作成] ボタン、または[複製] ボタンを使用します。

[テスト] ボタンを使うと、次の操作を実行できます。

- データベース接続のテスト
- データベースが現在のAssetCenterバージョンと互換性があるかどうかのチェック

データベースに接続するには、[開く] ボタンを押します。これは、[ファイル / データベースに接続] メニューを選択するのと同じです。

重要項目:

[所有者] フィールドでは、データベースのテーブルに含まれていないデータベースログイン ([ユーザ] フィールド) を承認できます。この場合、データベースに送信されるすべてのSQLステートメントには接頭語が付きます。例えば、データベースの所有者が「Joe」の場合、「select a from b」というSQLステートメントは次のようになります。

```
SELECT Joe.a FROM Joe.b
```

注意:

[ファイル / データベース接続の管理] メニューを使ってデータベースを作成することはできません。データベースを作成するには、AssetCenter Database Administratorを使う必要があります。

データベースへの接続を削除する

次の手順に従ってデータベースへの接続を削除しても、データベースが壊れることはありません。

- 1 [ファイル/データベース接続の管理]メニューを選択します。
- 2 削除する接続を選択します。
- 3 [削除]をクリックします。

AssetCenterのパフォーマンス


低速ネットワークでAssetCenterを使う場合は、特定の要素（特に画像）の表示が遅くなることがあります。

その場合は、画像などの容量の大きいオブジェクトをクライアントのコンピュータのローカルドライブにコピーすると、プログラムのパフォーマンスを向上させることができます。このコピーを「キャッシュ」と呼びます。

キャッシュの仕組み

- キャッシュを作成すると、ローカルフォルダ（ディレクトリ）にファイルのセットが作成されます。
- ユーザが画像などの項目を要求すると、ソフトウェアによりこれらの項目がキャッシュにコピーされます。
- 大きな項目（画像、書式、データベース構造など）を表示するたびに、ソフトウェアにより、項目が変更されていないかどうかチェックされます。変更されていない場合は、キャッシュ内の項目が表示されます。変更されている場合は、キャッシュが更新され、正しい値が表示されます。

キャッシュを作成する

- 1 [ファイル/データベース接続の管理]メニューを使用して、接続のリストを表示します。
- 2 既存の接続を選択します。または新しい接続を作成します。
- 3 [キャッシュ]タブページの[ディスクキャッシュを有効にする]チェックボックスをオンにします。
- 4  ボタンを使って、[キャッシュのローカルフォルダ]を選択します。

警告:

キャッシュサイズは1MBから20MBの間で設定します。キャッシュが最大サイズに達すると、必要に応じてキャッシュ内の最も古い項目が消去され、新しい項目が追加されます。

アクション

アクションは、AssetCenterから直接実行できるプログラムを呼び出す操作です。アクションを定義するには、[ツール / アクション / 編集] メニューを選択します。

アクションの種類

次の種類のアクションがあります。

- 実行可能プログラム
- DDE
- メッセージ
- スクリプト：AssetCenterデータベースのオブジェクトを変更します。
- ウィザード
- 印刷
- 導入
- アクション
- コントロールパネル

「ウィザード」タイプのアクション

ウィザードは連続するページで構成されています。ユーザは、各ページで情報を選択したり、データを入力したりします。




ウィザードでは、次のように簡単にページ間を移動できます。

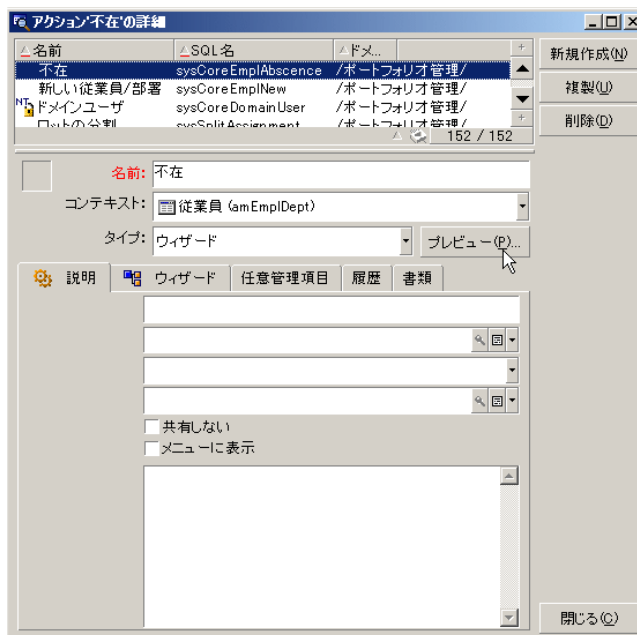
- ページに情報を正しく入力したら、[次へ] ボタンをクリックして次のページに移動します（移動先のページは遷移の設定によります）。最後のページまで進むと、このボタンは使用できなくなります。
- [戻る] ボタンをクリックすると、いつでも前のページに戻り、情報を訂正することができます。
- [終了] ボタンをクリックすると、ウィザードの最終アクションをいつでも実行できます。情報不足でウィザードが指定された処理を行うことができない場合は、必要な情報を入力するためのページが表示されます。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、ウィザードの実行（および関連するアクション）を完全に取り消すことができます。

アクションの実行

以下のいずれかの方法でアクションを実行できます。

- ツールバーのボタン  をクリックします。
 ドロップダウンリストに使用可能なアクションの名前が表示されます。 ボタンをクリックするとアクションが新規に実行されます。アクションが既に実行されている場合は、 の代わりに、最後に実行されたアクションのアイコンが表示されます。
- [ツール/アクション]メニューで希望のアクションを選択します。
- アクションのプレビューから実行する。
 - 1 [ツール/アクション/編集]メニューでアクションのリストを表示します。
 - 2 アクションの[コンテキスト](SQL名: ContextTable)フィールドにアクションの参照テーブルが指定されている場合、[プレビュー]をクリックします。



- 3 ウィンドウの[コンテキスト]のドロップダウンリストに、テーブルのレコードが表示されます。このリストからアクションのコンテキストを選択します。
- 4 [実行]をクリックします。

- ポップアップメニューの [アクション] メニューからアクション名をクリックします。

ヒント:

リストで複数のレコードを選択し、これらに1つのアクションを適用できます。

例

複数の資産を選択し、そのユーザに同じメッセージを送信できます。

メッセージ

AssetCenterのユーザはメッセージを送受信できます。

新しいメッセージを読む

受信したメッセージには、[ツール/メッセージ]メニューのメッセージのリストからアクセスできます。

参照オブジェクト

[参照オブジェクト] ボタンを使用すると、メッセージに関連するレコードに直接アクセスできます。例えば、ユーザに新しい購入依頼が提出されていることを示すメッセージの場合、このボタンをクリックすると、この購入依頼の詳細情報に直接アクセスできます。

新規メッセージのチェック

[編集/オプション]メニューの[メッセージ]オプションで定義した定期チェックの間隔で、メッセージの受信が通知されます。




データベースへの接続時に、接続前に受信したメッセージなどの未読メッセージが検出されると、メッセージを読むように促すダイアログボックスが表示されます。

セッション中に新規メッセージを受信すると、同様なメッセージが表示され、メッセージを読むようにユーザに促します。


履歴

AssetCenterの特定のフィールドおよびリンクに加えられた変更の履歴を、保存することができます。

管理者は、[オブジェクトの設定] ショートカットメニューまたはAssetCenter Database Administratorを使って、これらのフィールドおよびリンクの履歴を保存するように定義する必要があります。

必要に応じて、 ボタンを使って、履歴項目を手動で追加することもできます。履歴項目を破棄、表示、または変更するには、 ボタンと ボタンを使います。

アラーム

フィールドの右側にアラームアイコンが表示される場合は、アラームを設定することができます。アラームに設定した日付に応じて、AssetCenterのアクションテーブルのアクションが起動します。

アラームは、特定の日付に近くなるとトリガされます。AssetCenterでは、様々な操作にアラームを使用できます。

一般に、アラームが起動するアクションは、AssetCenterのユーザに期限（契約期間の満了など）が近づいていることを警告するメッセージの送信などです。

AssetCenterのユーザは、1つまたは2つのレベルのアラームを作成できます。各レベルに期限と起動するアクションを定義します。

2つのレベルをアラームに設定する場合は、第1レベルのアラームで実行したアクションによって、第2レベルのアラームがトリガされるかどうかが決まります。

- 第1レベルのアラームが、AssetCenterの内部メッセージシステム以外のメッセージシステム（サードパーティのメッセージシステムなど）でメッセージを送信するアクションを起動した場合は、第2レベルのアラームは常に定義された時間にトリガされます。
- 第1レベルのアラームにより、内部メッセージシステムでAssetCenterユーザのグループにメッセージが送信され、受信者の誰かがそのメッセージを開封した場合は、第2レベルに定義されているアクションはトリガされません。

ショートカットキー

この章では、AssetCenter Windowsクライアントでマウスを使用しないで移動する方法を説明します。

表記法：

- ボタン：ダイアログボックスの表示要素
- ボタンの有効化：[Enter] または [Return] を押して、ボタンに対応する動作を実行することです。
- キー：キーボード要素
- キーの押下：キーボードキーを押すことです。

AssetCenterでの移動方法：▶ 『AssetCenter - はじめに』の「AssetCenterを初めて使用する」の章。

ヒント:

次に示すのは、表マウスを使用しないナビゲーション - 一般機能 [俊敏8] から取られたこの節の表を読み込む方法の例です。

目的の動作 (状況)	対応する操作
キャッシュを更新 (アプリケーションウィンドウ)	キーボード：[Ctrl+F5]

目的の動作：キャッシュを更新

これを行うためには、まずアプリケーションウィンドウ内でオブジェクトを選択する必要があります。これにより、操作の内容を指定します。

必要な内容にフォーカスを移動したら、[Ctrl+F5] キーを押すという記述された操作を実行できます。

一般機能

表 7.1. マウスを使用しないナビゲーション - 一般機能

目的の動作 (状況)	対応する操作
AssetCenter Windowsクライアントを開始	1 [Windows] キー 2 [プログラム / Peregrine / AssetCenter / Peregrine AssetCenter] メニュー

目的の動作 (状況)	対応する操作
AssetCenterデータベースへの接続	<ol style="list-style-type: none"> 1 AssetCenter Windowsクライアントを開始する 2 [接続]、[ログイン]、[パスワード]フィールドを入力する 3 [開く]ボタンを有効化する 4 AssetCenterでは、接続後にダイアログボックスが表示されることがあります。このとき音声信号によって通知されません。 この信号が音声を伴わない場合、ダイアログボックスは有効化されません。 ダイアログボックスを有効化するには、[Alt+Tab]キーを押します。
キャッシュを更新 (アプリケーションウィンドウ)	キーボード：[Ctrl+F5]
印刷 (アプリケーションウィンドウ)	キーボード：[Ctrl+P]
オンラインヘルプを表示 (アプリケーションウィンドウ)	キーボード：[F1] 一般メニュー：[ヘルプ/トピックの検索]
AssetCenter Windowsクライアントを終了 (アプリケーションウィンドウ)	キーボード：[Alt+F4]

メニュー

表 7.2. マウスを使用しないナビゲーション - メニュー

目的の動作 (状況)	対応する操作
AssetCenterアプリケーションウィンドウのサイズ変更および移動メニューを表示 (アプリケーションウィンドウ、開いているアプリケーション内にウィンドウはありません)	キーボード：[Alt]、下矢印、上矢印を続けて押す
AssetCenterアプリケーションウィンドウ内のウィンドウのサイズ変更および移動メニューを表示 (ウィンドウ)	キーボード：[Alt]、下矢印、上矢印を続けて押す

目的の動作（状況）	対応する操作
メニューバーを選択 （アプリケーションウィンドウ）	キーボード：[Alt]
メニューバーの別のオプションに移動 （メニューバーオプションまたはメニュー）	キーボード：左矢印または右矢印
メニューバーにオプションのドロップダウンリストを表示 （メニューバーオプション）	キーボード：下矢印または[Enter]
ショートカットメニューを表示 （ウィンドウコンポーネント）	キーボード：[Shift+F10]または[メニュー]
ドロップダウンリストメニュー内で移動 （メニュー）	キーボード：上矢印または下矢印
サブタブとして表示されるリンクを追加、複製、または削除するショートカットメニューを表示	<p>リンクを追加、複製、または削除することができるショートカットメニューを表示するのは、リンクがサブタブ形式で表示されている場合は実用的ではありません。</p> <p>リンクはリスト形式で表示することをお勧めします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 現在のタブのコンポーネントを選択（タブ自体の名前を除く） ショートカットメニュー：[リスト形式で表示]

レコードリストと詳細ウィンドウ

表 7.3. マウスを使用しないナビゲーション - リスト/詳細ウィンドウ

目的の動作（状況）	対応する操作
詳細のみを表示 （リスト/詳細ウィンドウ）	キーボード：[F7] 一般メニュー：[ウィンドウ / 詳細のみ] ショートカットメニュー：[詳細のみ]
リストのみを表示 （リスト/詳細ウィンドウ）	キーボード：[F6] 一般メニュー：[ウィンドウ / リストのみ] ショートカットメニュー：[リストのみ]

目的の動作 (状況)	対応する操作
リストと詳細を表示 (リスト/詳細ウィンドウ)	キーボード: [F8] 一般メニュー: [ウィンドウ / リストと詳細] ショートカットメニュー: [リストと詳細]
リストと詳細内の情報を更新 (リスト/詳細ウィンドウ)	キーボード: [F5] 一般メニュー: [ウィンドウ / 更新]
リストと詳細の間のセパレータを移動 (リスト/詳細ウィンドウ)	キーボード: 1 [F8] キーを押してセパレータバーを移動できるようにします。 2 上矢印キーと下矢印キーを押して、セパレータバーを上下に移動します。 3 [Enter] を押して、セパレータの新しい場所を確定します。

レコードリスト

表 7.4. マウスを使用しないナビゲーション - メインレコードリスト

目的の動作 (状況)	対応する操作
レコードを作成 (リストゾーン)	キーボード: [Insert]
レコードを削除 (リストゾーン)	キーボード: [Del]
リストゾーンの現在のレコードを選択 (リスト/詳細ウィンドウ)	キーボード: [Alt+F6] ショートカットメニュー: [移動 / リスト]
一般メニュー: [ウィンドウ / リスト形式で表示]	
ショートカットメニュー: [リスト形式で表示]	
一般メニュー: [ウィンドウ / ツリー構造で表示]	
ショートカットメニュー: [ツリー構造で表示]	
リストの先頭にあるレコードを選択 (すべてのフィルタと並び替えを考慮) (リスト/詳細ウィンドウまたはリストゾーンのみ)	キーボード: ■ [Ctrl+F11] ■ [Home] 一般メニュー: [編集 / 開始]

目的の動作（状況）	対応する操作
リストの最後にあるレコードを選択（すべてのフィルタと並び替えを考慮） （リスト/詳細ウィンドウまたはリストゾーンのみ）	キーボード： <ul style="list-style-type: none"> ■ [Ctrl+F12] ■ [End]
一般メニュー：[編集 / 戻る]	一般メニュー：[編集 / 終了]
一般メニュー：[編集 / 次へ]	
前のリストページを表示（すべてのフィルタと並び替えを考慮） （リストゾーン）	キーボード：[Page up]
次のリストページを表示（すべてのフィルタと並び替えを考慮） （リストゾーン）	キーボード：[Page down]
前のレコードセットを読み込む （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[次をロード / 下へ]
次のレコードセットを読み込む （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[次をロード / 上へ]
リストゾーンの列の形式にフィールドまたはリンクを追加 （フィールドまたはリンク編集ゾーン）	ショートカットメニュー：[この列をリストに追加]
リストゾーンの列からフィールドまたはリンクを削除 （列）	ショートカットメニュー：[ユーティリティ / この列を削除]
リスト内のすべての列がウィンドウ幅に収まるように列幅を変更できます。各列幅の相対比を保ったまま調節します。 （リストゾーン）	キーボード：[F9]
各列に含まれている項目のうち、最も長い項目の長さに合わせて列幅を調節します（メモリに読み込まれたレコード用）。 （リストゾーン）	キーボード：[Ctrl+F9]
レコードを検索（すべてのフィルタと並び替えを考慮） （探索領域にする列で並び替えられたリスト）	キーボード：[Ctrl+G] ショートカットメニュー：[ジャンプ]
リスト内のすべてのレコードを選択 （リスト/詳細ウィンドウ）	キーボード：[Ctrl+A] 一般メニュー：[編集 / すべて選択]
レコードのグループを選択 （リストゾーンの選択済みレコードが先）	キーボード：[Shift] キーを押しながら、上矢印または下矢印によって選択範囲を広げる

目的の動作（状況）	対応する操作
レコードリストを設定 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[ユーティリティ/リストの設定]
シンプルフィルタをリストに追加 （リストまたはリスト/詳細ウィンドウゾーン）	一般メニュー：[<テーブル名>/シンプルフィルタ]または<テーブル名>/フィルタの追加/シンプルフィルタ] ショートカットメニュー：[シンプルフィルタ]または[フィルタの追加/シンプルフィルタ]
フィールドまたはリストにシンプルフィルタを追加 （フィールド編集ゾーン）	ショートカットメニュー：[このフィールドで検索]
リンクまたはリストにシンプルフィルタを追加 （リンク編集ゾーン）	ショートカットメニュー：[このリンクで検索]
リストにクエリフィルタを追加 （フィールドまたはリンク編集ゾーン）	一般メニュー：[<テーブル名>/クエリフィルタ]または[<テーブル名>/フィルタの追加/クエリフィルタ] ショートカットメニュー：[クエリフィルタ]または[フィルタの追加/クエリフィルタ]
フィールドによるレコードのグループ分け （フィールド編集ゾーン）	ショートカットメニュー：[このフィールドでグループ分け]
リンクでレコードをグループ分け （リンク編集ゾーン）	ショートカットメニュー：[このリンクでグループ分け]
リストのステータスバーを更新 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[ユーティリティ/ステータスバーの更新]

表 7.5. マウスを使用しないナビゲーション - タブ内のリスト

目的の動作（状況）	対応する操作
タブ形式でリストを表示（マウス使用時には推奨しません） （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[タブ形式で表示]
テーブル形式でリストを表示（マウス使用時に推奨） （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リスト形式で表示]
リンクを追加 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクを追加]

目的の動作（状況）	対応する操作
リンクを複製 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクレコードの複製]
リンクを削除 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[リンクの削除]
リンクの詳細を表示 （リストゾーン）	ショートカットメニュー：[Show detail of link] (リンクの詳細表示)
リンクをコピー （リストゾーン）	[Ctrl+C] キー [編集 / コピー] メニュー
リンクを切り取り （リストゾーン）	キーボード： 1 [Ctrl+X] キー 2 [変更] ボタン 一般メニュー： 1 [編集 / 切り取り] メニュー 2 [変更] ボタン
リンクを貼り付け （リストゾーン）	キーボード： 1 [Ctrl+V] キー 2 [変更] ボタン 一般メニュー： 1 [編集 / 貼り付け] メニュー 2 [変更] ボタン
リンクを削除 （リストゾーン）	キーボード： 1 [Delete] キー 2 [変更] ボタン 一般メニュー： 1 [編集 / 削除] メニュー 2 [変更] ボタン

表 7.6. マウスを使用しないナビゲーション - テーブル形式のリスト

目的の動作（状況）	対応する操作
テーブル形式でリストを表示 （リスト/詳細ウィンドウ）	キーボード：[Ctrl+L]
前のレコードを選択（すべてのフィルタと並び替えを考慮） （リスト / 詳細ウィンドウまたはリストゾーンのみ）	キーボード： ■ [F11] ■ 上矢印

目的の動作（状況）	対応する操作
次のレコードを選択（すべてのフィルタと並び替えを考慮） （リスト/詳細ウィンドウまたはリストゾーンのみ）	キーボード： <ul style="list-style-type: none"> ▪ [F12] ▪ 下矢印

表 7.7. マウスを使用しないナビゲーション - ツリー形式のリスト

目的の動作（状況）	対応する操作
ツリー形式のリストを表示 （リスト/詳細ウィンドウ）	キーボード：[Ctrl+T]
ツリー形式で表示されるリスト全体を階層表示 （ツリー構造ゾーンとして表示されるリスト）	ショートカットメニュー：[階層の表示/2レベル]（または[3レベル]、[全レベル]）
ツリー形式で表示されるリスト全体の階層を非表示 （ツリー構造ゾーンとして表示されるリスト）	ショートカットメニュー：[非表示/1レベル]
左矢印キーと右矢印キーを有効または無効にしてツリー構造のノードを階層表示したり非表示にしたりする （アプリケーションウィンドウ）	一般メニュー： <ol style="list-style-type: none"> 1 [編集/オプション]メニュー 2 [リスト/ツリー構造のノードを開閉するための矢印キー]オプションを選択 3 このオプションを[はい]に設定
[リスト/ツリー構造のノードを開閉するための矢印キー]オプション（[編集/オプション]メニュー）をオンにした場合のナビゲーション	
ツリーノードを展開 （ツリー構造リスト）	キーボード：右矢印
ツリーノードを非表示 （ツリー構造リスト）	キーボード：左矢印
親を選択 （ツリー構造リスト）	キーボード：左矢印
次の表示レコードを選択 （ツリー構造リスト）	キーボード：下矢印
前の表示レコードを選択 （ツリー構造リスト）	キーボード：上矢印
次の列を選択 （ツリー構造リスト）	キーボード：[Shift+右矢印]

目的の動作（状況）	対応する操作
前の列を選択 （ツリー構造リスト）	キーボード：[Shift+下矢印]
[リスト/ツリー構造のノードを開閉するための矢印キー] オプション（[編集/オプション] メニュー）をオフにした場合のナビゲーション	
次の列を選択 （ツリー構造リスト）	キーボード：右矢印
前の列を選択 （ツリー構造リスト）	キーボード：左矢印
ツリー形式で表示されるリストでノードの階層を表示 （ノード）	キーボード：[+]
ツリー形式で表示されるリストでノードを非表示にする （ノード）	キーボード：[-]
ツリー形式で表示されるリストでノードを完全に展開 （ノード）	キーボード：[*]
ツリー形式で表示されるリストでノードの階層を全部非表示にする （ノード）	キーボード：[/]

レコードの詳細情報

表 7.8. マウスを使用しないナビゲーション - レコード詳細

目的の動作（状況）	対応する操作
詳細ゾーンの最初のフィールドまたはリンクを選択 （リスト/詳細ウィンドウ）	キーボード：[Alt+F7] キー ショートカットメニュー：[移動/詳細]
次のフィールドまたはリンクを選択 （フィールドまたはリンク編集ゾーン）	キーボード：[Tab]
前のフィールドまたはリンクを選択 （フィールドまたはリンク編集ゾーン）	キーボード：[Shift+Tab]
タブまたはサブタブの名前を選択 （リスト/詳細ウィンドウ）	キーボード：[Tab] キーを押しながら、 タブまたはサブタブの名前を選択する

目的の動作 (状況)	対応する操作
次のタブを選択 (現在のタブのあらゆるコンポーネント (タブ、フィールド、リンク、ボタン名など)。現在のタブのサブタブのコンポーネントを除く)	キーボード: [Ctrl+Page down]
次のタブを選択 (タブの名前)	ショートカットメニュー: [次のタブ]
前のタブを選択 (現在のタブのあらゆるコンポーネント (タブ、フィールド、リンク、ボタン名など)。現在のタブのサブタブのコンポーネントを除く)	キーボード: [Ctrl+Page up]
前のタブを選択 (タブの名前)	ショートカットメニュー: [前のタブ]
タブを設定 (タブまたはレコードゾーンのタイトル)	一般メニュー: [ツール/タブページの設定] ショートカットメニュー: [タブページの設定]
ボタンゾーンの最初のボタンを選択 (リスト/詳細ウィンドウ)	キーボード: [Alt+F8] ショートカットメニュー: [移動/ボタン]
次のボタンを選択 (ボタン)	キーボード: [Tab]
前のボタンを選択 (ボタン)	キーボード: [Shift+Tab]
ボタンを有効化 (ボタン)	キーボード: [Enter]

表 7.9. マウスを使用しないナビゲーション - 詳細画面のフィールドとリンク

目的の動作 (状況)	対応する操作
ドロップダウンリストの値を選択 (ドロップダウンリスト)	キーボード: [Enter]
フィールドまたはリンクを設定 (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード: [Alt+Enter] ショートカットメニュー: [オブジェクトの設定]

目的の動作（状況）	対応する操作
フィールドまたはリンクのヘルプ (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード：[Shift+F1] 一般メニュー：[ヘルプ / フィールドのヘルプ] ショートカットメニュー：[フィールドのヘルプ]
フィールドまたはリンクからテキストをクリップボードにコピー (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード：[Ctrl+C] 一般メニュー：[編集 / コピー]
フィールドまたはリンクのテキストを貼り付け (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード：[Ctrl+V] 一般メニュー：[編集 / 貼り付け]
フィールドまたはリンクのテキストを切り取り (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード：[Ctrl+X] 一般メニュー：[編集 / 切り取り]
フィールドまたはリンクのテキストを削除 (フィールドまたはリンク編集ゾーン)	キーボード：[Del] ショートカットメニュー：[編集 / 削除]

表 7.10. マウスを使用しないナビゲーション - 詳細画面のフィールド

目的の動作（状況）	対応する操作
フィールドの入力に使用するドロップダウンリストを表示 (フィールド編集ゾーン)	キーボード：下矢印
チェックボックスをオンまたはオフにする (チェックボックス)	キーボード：スペースバー
数値フィールドの値を1単位ずつ増やす (数値フィールド編集ゾーン)	キーボード：上矢印
計算機を有効化 (数値フィールド編集ゾーン)	キーボード：[Alt+下矢印]
数値フィールドの値を減らす (数値フィールド編集ゾーン)	キーボード：下矢印
通貨の値を編集 (通貨フィールド編集ゾーン)	ショートカットメニュー：[通貨の編集]
フィールドにアラームを設定 (データフィールド編集ゾーン)	ショートカットメニュー：[アラームの編集]
現在の日付と時間を挿入 (日付または日付と時間フィールドの編集ゾーン)	キーボード：[Ctrl+;]

表 7.11. マウスを使用しないナビゲーション - 詳細内のリンク

目的の動作 (状況)	対応する操作
リンクの入力に使用するドロップダウンリストを表示 (リンク編集ゾーン)	キーボード: [Alt+下矢印]
ドロップダウンリストではなくて選択ウィンドウでリンクを選択 (リンク編集ゾーン)	ショートカットメニュー: [リンクの選択]
リンクの詳細を表示 (リンク編集ゾーン)	キーボード: [F4] ショートカットメニュー: [Show detail of link] (リンクの詳細表示)
リンクを削除 (リンク編集ゾーン)	ショートカットメニュー: [リンクの削除]

ウィザード

表 7.12. マウスを使用しないナビゲーション - ウィザード

目的の動作 (状況)	対応する操作
ウィザードデバッグを起動 (実行中のウィザード)	キーボード: [Shift+F9]

モジュール



注意:

[ファイル / モジュールの起動] メニューと同じオプションがあります。

表 7.13. マウスを使用しないナビゲーション - モジュール

目的の動作 (状況)	対応する操作
有効/無効モジュールウィンドウ内で移動 (有効/無効モジュールウィンドウ)	キーボード: 上矢印または下矢印

目的の動作（状況）	対応する操作
モジュールを選択または選択解除 （モジュール名）	キーボード：スペースバー

データベースオプション

 注意:

[管理 / データベースオプション] メニューと同じオプションです。

表 7.14. マウスを使用しないナビゲーション - データベースオプション

目的の動作（状況）	対応する操作
オプション編集ウィンドウ内で移動 （オプション）	キーボード：左矢印または右矢印

一般オプション

 注意:

[編集 / オプション] メニューと同じオプションです。

表 7.15. マウスを使用しないナビゲーション - 一般オプション

目的の動作 (状況)	対応する操作
オプションの設定を編集 (オプション)	キーボード： 1 [Shift+スペースバー] 2 現在の値を置き換える場合は、新しい値を直接入力します。 または： 現在の値を変更する場合は、上矢印または下矢印を押します。 3 現在のオプションに加えている変更を取り消す場合は、[Escape] キーを押します。 4 現在の入力項目を確認する場合は、[Enter] を押します。

エラーメッセージ

操作を実行できない場合や問題が発生した場合は、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージに問題の原因が明確に記載されているため、このマニュアルでは、個々のメッセージの説明を省きます。

エラーメッセージウィンドウには、エラーメッセージをファイルとして保存できる [保存] ボタンがあります。

また、[コピー] ボタンをクリックすると、クリップボードにエラーメッセージをコピーできます。

インデックス

PEREGRINE

- アクション, 94
 - ウィザード, 94
 - タイプ, 94
 - プレビュー, 95
 - レコード - 選択, 96
 - 実行, 95
- アプリケーションウィンドウ
 - サイズを変更する, 99
 - 移動する, 99
- アプリケーションウィンドウ内のウィンドウ
 - サイズを変更する, 99
 - 移動する, 99
- アラーム, 97 (参考 フィールド)
- インストール済みコンポーネント, 26
- ウィザード, 94, 75-77
 - クエリウィザード (QBE), 65
 - ユーザ, 76
 - 定義, 75
 - 表示の優先度, 25
 - 分類, 76
- ウィザードデバッグ, 109
- ウィザード - デバッグ, 109
- エラー, 111
- オブジェクトの設定 (メニュー), 97, 52
- オンラインヘルプ, 99, 12
- Basicスクリプト, 13
- ツールのヒント, 25
- フィールドとリンクのヘルプ, 13
- ワンポイント, 14
- 一般的なヘルプ, 12
- お気に入り, 25
- カスタマイズ
 - ツールバー, 24
- キー - 押下, 98
- キャッシュ, 93
 - サイズ, 93
 - 概要, 93
 - 更新, 55
 - 作成, 93
- キャッシュの更新 (メニュー), 55
- キャッシュ - 更新, 99
- キャンセル (ボタン), 54, 46, 29
- クエリ (参考 フィルタ)
- グループ分け, 32
- このフィールドで検索 (メニュー), 72
- このフィールドに関する統計 (メニュー), 40
- このフィルタを削除 (メニュー), 71
- このリンクで検索 (メニュー), 72
- このリンクに関する統計 (メニュー), 40

- この列に関する統計 (メニュー), 40
- この列をリストに追加 (メニュー), 35
- この列を削除 (メニュー), 35
- コピー, 60
- コメント (テーブル), 58
- サイズを変更する
 - アプリケーションウィンドウ, 99
 - アプリケーションウィンドウ内のウィンドウ, 99
- サブタブ - 追加、複製、および削除, 100
- ジャンプ (メニュー), 41
- システム - 情報, 26
- ショートカットメニュー, 100
- スケジュール
 - カスタマイズ, 86
 - 概要, 79
 - 休日, 86
 - 実用例, 83
 - 追加, 80
 - 表示, 81
- ステータスバー, 24
- タブ
 - 次を選択する, 107, 107, 49, 49
 - 設定, 107
 - 前を選択する, 107, 107, 50, 50
 - 名前を選択する, 106, 49
- タブページ, 47
- タブ内のリスト
 - タブ形式で表示する, 103, 47
 - リスト形式で表示する, 47
 - リスト書式で表示する, 103
 - リンク
 - コピー, 104, 48
 - 削除, 104, 104, 48, 48
 - 詳細, 104, 48
 - 切り取り, 104, 48
 - 追加, 103, 48
 - 貼り付け, 104, 48
 - 複製, 104, 48
- チェックボックス (参考 フィールド)
- ツールのヒント, 25
- ツールバー, 24
- ツールバーのカスタマイズ (メニュー), 24
- ツリー構造
 - すべての階層を表示, 105
 - すべて非表示, 105
 - ノードの階層を全部表示する, 106
 - ノードの階層を非表示にする, 106, 105
 - ノードの階層を表示する, 106, 105
 - ノードを全部非表示にする, 106
 - 右矢印と左矢印 - 設定, 105
 - 次のレコード, 105
 - 次の列, 106, 105
 - 親を選択する, 105
 - 前のレコード, 105
 - 前の列, 106, 106
- ツリー構造で表示 (メニュー), 30
- テーブル
 - (参考 検索)
- テキスト (参考 データ)
- デフォルト値, 57
- データ
 - コピー, 60
 - デフォルト値, 57
 - 削除, 61
 - 収集, 76
 - 切り取り, 59
 - 貼り付け, 60
 - 注意事項, 61
 - 入力, 76
 - 編集, 57
- データベース
 - (参考 接続)
 - DBMS, 15
 - 開いているデータベース, 26
 - 階層型モデル, 16
 - 概要, 14
 - 関係型モデル, 17
 - 作成, 92
 - 定義, 14
- データベースオプション - ナビゲーション, 110
- データベースに接続する, 99
- データベースに接続 (メニュー), 92, 23, 22
- データベースの接続解除 (メニュー), 23
- データベース管理システム (参考 DBMS)
- データベース接続の管理 (メニュー), 91, 22, 20
- データベース接続 - 接続, 99

- データベース設定の保存 (メニュー), 58
- ドロップダウンメニュー - ナビゲーション, 100
- ドロップダウンリスト, 39 (参考 フィールド) (参考 リンク)
- ナビゲーション
 - ウィザード, 109
 - タブ内のレコードのリスト, 103
 - ツリー構造リスト, 104
 - データベースオプション, 110
 - フィールド, 108, 107
 - マウスを使用しない, 98
 - メニュー, 99
 - モジュール, 109
 - リスト/詳細ウィンドウ, 100
 - リンク, 108, 107
 - レコードのメインリスト, 101
 - レコードの詳細情報, 106
 - 一般オプション, 110
 - 一般機能, 98
- パスワードの変更 (メニュー), 22
- パフォーマンス (参考 キャッシュ)
- ビュー (メニュー), 21
- フィールド, 17
 - アラーム, 108, 50
 - オンラインヘルプ, 108, 13
 - コピー, 108
 - チェックボックス, 108, 50
 - テキストを削除する, 108
 - ドロップダウンリスト, 108, 50
 - 値を選択する, 107
 - フィルタ, 103
 - 計算機, 108, 50
 - 現在の日付と時間, 108, 50
 - 最初のフィールドを選択する, 106, 49
 - 次のフィールド, 106, 49
 - 切り取り, 108
 - 設定, 107
 - 前のフィールド, 106, 49
 - 値を減らす, 108, 50
 - 値を増やす, 108, 50
 - 通貨, 108, 50
 - 貼り付け, 108
 - 特殊フィールド, 58
 - 必須フィールド, 52
- フィールドのヘルプ (メニュー), 13
- フィルタ, 68 (参考 リスト)
 - クエリフィルタ, 72
 - シンプルフィルタ, 72
 - タイプ, 68
 - 使用, 71
 - 重ね合わせ, 69
 - 動作, 70
 - 比較演算子, 70
- フィルタなし (メニュー), 71
- フロアプラン - オブジェクトの追加, 42
- ボタン
 - 最初を選択する, 107, 50
 - 次を選択する, 107, 50
 - 前を選択する, 107, 50
 - 有効化, 98
 - 有効化する, 107, 50
- ボタンの有効化, 98
- マウス (参考 ナビゲーション)
- メッセージ, 96
 - エラー, 111
 - 参照オブジェクト, 96
 - 受信メッセージ, 96
- メニュー, 23
 - ポップアップメニュー, 24
 - メニューバー, 23
 - ライセンス, 24
- メニューバー, 23
 - オプションのドロップダウンメニュー, 100
 - ナビゲーション, 100
 - 選択, 100
- モジュール
 - ナビゲーション, 109
 - 選択/選択解除, 110
- リスト, 17
 - クエリフィルタ, 103
 - グループ分け
 - フィールド, 103
 - リンク, 103
 - ステータスバー - 更新, 103
 - ツリーモード, 105
 - ツリー構造 (参考 ツリー構造)
 - テーブルモード, 104
 - フィールドまたはリンクを削除する, 102

- フィールドまたはリンクを追加する, 102
- リスト/詳細セパレータ, 101
- リストと詳細, 101
- リストのみ, 100
- 仮想階層のキャンセル, 33
- 仮想階層の作成, 32
- 簡易フィルタ, 103
- 更新する, 101
- 次のセット, 102
- 次のページ, 102
- 設定, 103
- 前のセット, 102
- 前のページ, 102
- 列 - 幅, 102, 102
- リストと詳細 (メニュー), 44, 31
- リストのみ (メニュー), 44, 31
- リストの出力 (メニュー), 43, 42
- リストの設定 (メニュー), 73, 71, 69, 36, 34
- リスト形式で表示 (メニュー), 30
- リンク, 58
 - オンラインヘルプ, 108, 13
 - コピー, 108
 - テキストを削除する, 108
 - ドロップダウンリスト, 109, 51
 - フィルタ, 103
 - 最初のリンクを選択する, 106, 49
 - 削除, 109, 51
 - 次のリンク, 106, 49
 - 詳細, 109, 51
 - 切り取り, 108
 - 設定, 107
 - 選択ウィンドウ, 109, 51
 - 前のリンク, 106, 49
 - 追加、複製、および削除, 100
 - 貼り付け, 108
- リンクの追加 (メニュー), 49
- レコード, 17
 - (参考 検索)
 - グループ分け, 32
 - すべてを選択する, 102
 - デフォルト値, 52
 - リスト (参考 レコードリスト)
 - 検索, 102, 41
 - 最後を選択する, 102
 - 最初を選択する, 101
 - 作成, 101, 51
 - 削除, 101, 56
 - 注意事項, 57
 - 次を選択する, 105
 - 処理, 51
 - 詳細, 43
 - アクセス, 44
 - ウィンドウ - サイズ, 45
 - タブページ, 47
 - ボタン, 46
 - リスト - 表示, 44
 - 選択, 101, 41
 - 前を選択する, 104
 - 複数選択, 102
 - 複製, 55
 - 変更, 53
 - 他のユーザによる, 54
 - 複数のレコード, 54
- レコードリスト, 26
 - (参考 印刷)
 - (参考 検索)
 - ツリー構造, 29
 - ナビゲーション, 28
 - ビュー, 30
 - ボタン, 29, 28
 - レイアウト, 34
 - 階層構造, 29
 - 概要, 27
 - 検索, 41
 - 使用, 27
 - 出力, 42
 - 詳細 - 表示, 44
 - 設定, 36, 34
 - 選択, 41
 - 読み込み, 28
 - 進行状況, 29
 - 表示 - パラメータ, 34
 - 並べ替え, 34
 - 列
 - 削除, 35
 - 追加, 35
 - 幅, 35
- レポート
 - (参考 印刷)

- ワンポイント, 14
- ワンポイント (メニュー), 14
- 移動する
 - アプリケーションウィンドウ, 99
 - アプリケーションウィンドウ内のウィンドウ, 99
- 一般オプション - パラメータを編集する, 111
- 印刷, 87-90
 - プレビュー, 89
 - リスト, 87
 - 詳細, 89
- 印刷する, 99
- 横長ウィンドウに切り替え (メニュー), 45
- 仮作成の許可 (メニュー), 52
- 仮作成 (ボタン), 52
- 画像, 63
- 画面一覧 (メニュー), 27
- 開始, 19
 - Windowsのメニュー, 20
 - コマンドライン, 20
 - スペース, 21
- 階層の表示 (メニュー), 30
- 階層構造
 - 変更, 31
- 階層 - 変更, 31
- 拡張削除の許可 (オプション), 57
- 機能, 24
- 起動 (参考 開始)
- 休日, 86
- 計算機 (参考 フィールド)
- 検索, 65-74
 - クエリウィザード (QBE), 65
 - フィルタ (参考 フィルタ)
- 更新する, 101
- 更新 (メニュー), 70, 54
- 行, 17
- 作業領域, 23
- 作成 (ボタン), 46, 29
- 削除 (ボタン), 29
- 参照オブジェクト (ボタン), 96
- 時間 (参考 フィールド)
- 時刻, 62 (参考 フィールド)
- 終了, 21
- 終了 (メニュー), 21
- 縦長ウィンドウに切り替え (メニュー), 45
- 出力
 - レコードリスト, 42
 - 注意事項, 43
 - 複数のレコードの変更, 54
- 書式
 - (参考 印刷)
- 詳細, 17
 - (参考 タブ)
 - (参考 フィールド)
 - (参考 ボタン)
 - (参考 リンク)
 - (参考 印刷)
 - リスト/詳細セパレータ, 101
 - リストと詳細, 101
 - 更新する, 101
 - 詳細のみ, 100
- 詳細設定 (ボタン), 52
- 詳細 (ボタン), 29
- 新規作成 (ボタン), 51, 29
- 切り取り, 59
- 接続, 22
 - NTセキュリティ, 22
 - 作成, 91
 - 削除, 93
 - 接続の切断, 23
 - 標準の接続, 22
 - 複数のデータベース, 22
- 接続解除, 23
- 選択ウィンドウ (参考 リンク)
- 選択 (ボタン), 29
- 通貨 (参考 フィールド)
- 貼り付け, 60
- 統計
 - グラフ表示, 40
 - 表示, 40
- 統合NTセキュリティ使用 (オプション), 23, 22
- 日付, 62
- 日付+時刻, 62
- 表示
 - 優先度, 25
- 表示の優先度, 25
- 複製 (ボタン), 55, 51, 29
- 複製 (メニュー), 56
- 並べ替え, 34

閉じる (ボタン), 29
変更, 54
変更 (ボタン), 54, 46
履歴, 97
列, 17 (参考 リスト)
 削除, 35
 追加, 35
 幅, 35

A

AssetCenter Server, 58
AssetCenterのバージョン, 26
AssetCenterのバージョン情報 (メニュー),
26, 26

B

Basicスクリプト - オンラインヘルプ, 13
bin (フォルダ), 20
bmp (ファイル), 63

C

Crystal Reports (参考 印刷)

D

DBMS, 15
DLL, 26

I

ico (ファイル), 63

Q

QBE, 65

W

Windowsクライアントを終了する, 99
Windowsクライアント - 開始, 98
wmf (ファイル), 63

